

島だより

第1週 「海」



みなさま

こちら船長です。夏休み佳境といったところでしょうか。コラム島へ渡った70余名、おかげさまで元気いっぱい。44作品をめぐる熱い議論の末、第1週のセッション結果が出ましたのでお届けします。

全作品リストと投票結果、ベスト10作品とそれについてのコメント、そして全作品講評の「まじょコメント」です。Webから落としたので、キレイなレイアウトでなくてごめんなさい。島の活気を感じていただければ幸いです。

今週のお題

開催中： 嘘

投稿受付中： インターネット

Column Land

■嘘です！
■海の結果は「アーカイブ」からどうぞ。栄光の初回首位はっ？

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

テーマ：海

投票総数：185件

順位	ポイント	投票数	作品タイトル	作成者	作者コメント	コメント数
1位	31	13	地上の衛星	Begonian	無	26
2位	27	14	第01回 あざらし川柳大賞	あざらし	無	21
3位	26	15	海＝波＝ポロリ	ばっは	無	31
	25	10	漂流物	カケラ	無	21
	23	10	月の海	Eisen	無	14
	23	9	危険地帯	茜	無	29
	22	10	海を越えて	わがし	無	15
	15	8	或るひとつの情景	RiZEL	無	19
	15	7	海の窓	He	無	14
	14	7	言われていることと、現実に関わりそうなこと	結政	無	25
	13	7	lonely blue	とまと	無	17
	12	6	井の中の蛙のなんとやら	こかみ	無	76
	11	5	シンマイ！それは海を創るもの	zoo	無	13
	11	5	物語にすらなりえない。	鞆鞆	無	12
	10	6	うみはひろいな おおきいな	ハチミツ	無	19
	10	5	防波堤	橘	無	27
	10	5	無限の世界	Tohma	無	13
	9	4	あおいうみ	さむらす	無	27
	9	4	零れた海を泳ぎながら	mendel	無	14
	7	5	眺望	ラト	無	15
	7	3	光の世界の住民たち	イッパイアッテナ	無	20
	5	2	夏の思い出	あそびにん LV.2 1	無	15
	4	3	豚	忠犬ヤス公	無	14
	4	2	海の魔力	オリボリ	無	14
	4	2	海をいじめちゃいけない	老若男女	無	13
	4	2	喪失	Asagi	無	15

3	1	えええ・・・	RincO	無	13
3	3	水溜りのある日	ルムルフ	無	14
3	2	出会い	八剣	無	18
2	2	船酔い	vicky	無	12
2	1	海が大きいのは人間が小さいから	えむえむ	無	14
2	2	夢を見た少年のお話	弟子	無	17
2	2	シージャック	ゆーべる	無	17
1	1	裏切りもまた一興	朱雀	無	12
1	1	わたしのひとりたび。	ふじさき	無	21
1	1	私の中に潜み、漂い、蠢く海	木星/dx	無	13
0	0	海、船、夢、現実	鬼☆おん	無	15
0	0	広がって…	ヤンヤンマ	無	15
0	0	シーサイド・ランデブー	神無月	無	11
0	0	海の悪魔	ルンタッタ～	無	18
0	0	独りつぶやき	pencha	無	17
0	0	げいるすてっぷ！（序）	地紅晴酸	無	14
0	0	人間と海	モデナ	無	16
0	0	船出	やまのかめさん	無	12

地上の衛星

総合順位：1位
合計ポイント：31 Point
作者：Begonian
作者コメントはありません。

ねえ、なんで月がいつも同じ側を地球に向けてるか知ってる？

そんなの、自転と公転の周期が一致してるからだろ？

ううん、違うよ
月が、地球に恋をしてるからだよ

月の裏側って、殆ど海がないって知ってる？

あっ、それは聞いたことあるな

彼女はね、そんなところを見せたくなかったんだよ

だから、海の多い方だけを？

そう
彼とおそろいの、海を彼に見て欲しかった
他の人達にはない、彼と彼女だけの『海』を

でも、それってなんか隠し事してるみたいで、イヤだな

それが乙女心じゃない

そんなもんなのかねえ

わたしも、彼女と同じかも知れないよ？

え…？

ねえ
もし、わたしがそんな月だとしても、地球は愛してくれる？

お前は、あの月とは違うよ。

…？

今、あの月って少しずつ地球から遠ざかってるんだって

…うん

やっぱ後ろめたさでもあるのかも知れないな

そう、なのかもね…

でも、この月は地球に近づこうとしてる

う、うん

そんなかわいいやつを、地球が愛さないわけないだろ？

…ホント？

ああ、なんなら落ちてきてもいいぞ
地球の海じゃ月は受け止めきれないかもしれないけど
俺の腕はちゃんとお前を抱き締められるから
お前の全部を、受け止めて見せるから
だから、安心して俺のところに、落ちてこい

……うん！

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
老若男女 8/20 12:21	うまい。今夜から月を愛おしく見てしまいそうです。
結政 8/20 12:53	きれいな言い回しに驚きました。 会話のみなのに情景を想像できてしまうのがすごいと思います。
茜 8/20 18:47	このふたりの真上に月を墜落させてしまいたい。 こーいうのの破壊力には、いつまでたっても勝てない。
さむらす 8/20 21:28	全体的にきれいなふうにとまとってると思うけど、いくつかひっかかることがありました。 彼とおそろいの海というのがいまいち釈然としない。月は海で遊ぶけど、月のものではないと思う。 地球を彼女、月を彼といっているのに、最後に人の話になったときには、逆になっているのがきになった。
He 8/20 21:49	きれいな話って好きです。 こういう比喩ってなかなか入れるタイミングというか、文脈というか、そういうものが合いにくいと思うんですけど、その辺りしっかりとつながってるなぁと思いました。

茜 8/20 23:45	>さむらすさん 地球が彼で月が彼女でいいんじゃないですか？ちゃんと。 地球には海があって月にも海があって、ほらおそろいでしょ？って言う話かなと思ったんですが。割と単純に。
木星/dx 8/21 1:41	お手上げ（笑）
で〜もん 8/21 16:37	甘くて吐きそうです。嘘です。 海のくだりがちょっと微妙。でも、全体的にはいい感じじゃないかと。
RincO 8/21 18:42	会話口調と改行効果によってとても読みやすくなっているとおもいました。 ネットで長い文章ばかりだと疲れてきてつい斜め読みしかしなくなるのですが、この文章はちゃんと全部よもうっていう気にさせられました。 綺麗でよかったとおもいます。
さむらす 8/21 21:45	なんかいろいろ誤読していたみたいだ。 月に海ってあるんですか？
zoo 8/21 23:49	普段話していたら馬鹿にされそうな会話が成立しているのが、二人の距離の近さのような気がした。 そして最後の今までで一番長く話した彼の言葉に思いが見える気が・・・ でも彼女の・・・というためらいがなんとも言えない。踏ん切りがつかないのか、そこまではないのか。
あざらし 8/22 11:6	甘いですね。色んな意味で。 私にはこのような作品を書けないです。
あそびにん LV.2 1 8/22 17:10	あまーーーーーい！（叫び） ふう、これでよしと。 惑星キミって曲もあったなあと思い出していました。 甘さは確実にそれ以上な気がするけど。 台詞回しは割とうまいと思うし、三点リーダーの使い方も、海の使い方もいいと思う。 で、結論はやっぱりあまーーーーーい！（褒め言葉） >さむらすさん 他の作品にも扱ったものがあるけど、月にはちゃんと海と呼ばれるところがあるよ。もちろん水はないけどね。
colt 8/23 2:39	こんな男、実際に居たらやだ。友達がこっそり彼女に言ったら……あああ。 けれど、何故かこの文章には惹かれてしまいます。やっぱり、比喩が上手くて、テンポが良くて、んでもって、 あまーーーーーい！（便乗） からでしょうか。あ、一応褒め言葉です。 ……なんかさっきから二の腕がうずうずします。……血糖値？ #茜さんのコメントに思わず笑いました。落としてやりたいですねw
ばっは 8/23 4:21	クサ！って思ったのは私だけ？ついつい失笑してしまう文章の一つ一つにtogetherを見てしまう。甘い作品が見たい人は旧掲示板に残っているよ。
ペピン 8/23 13:21	甘すぎる。コーヒーはブラックで飲む私には甘すぎる。 大気圏で月が丸こげになるんじゃないかなーと。もしかして「俺に触るとやけどするぜ」的なことも地球の彼に比喩がかかっているとか？ 惑星キミってポルノのやつだよね。糖度はあれくらいの方が好きだな。
あそびにん LV.2 1 8/23 15:4	>ペピンさん 「俺に触ると火傷するぜ」まで考えてだったら作者尊敬。というか、そんな深読み思いつかなかった。 ……でも、雰囲気的にそれがあるなら書いてるだろうから、きっと思いついてなかったんだろうな……もったいない。 わーい、惑星キミ分かる人がいたー。あそびにんもあれくらいがちょうどいい。単に惑星キミが割と好きな曲なのもあるけど。
ルムルフ 8/23 18:7	なんか完成された感がありますね。 会話だけの文章なので、改行の長さは間を表現しているのでしょうか。

Tohma 8/24 2:20	甘い、甘すぎる…… でも嫌いじゃないです、この甘さ。基本、甘党ですから。 これを読んで自分が昔書いた甘いベタこらむを思い出してしまい、 もうあんな文章書けねーな……と心がすさんでしまったことに気づきました。
ペピン 8/25 13:57	この手のやつは強烈な一撃かもしくは、印象的な一言が欲しい。togetherなんてそこらへん抜群でしょ。to get herを超えろとは言わないまでもね。雰囲気は凄くいいんだよ。けど完全にノックアウトさせるのがあると、完璧じゃないでしょうか？糖度がグーンと増して鳥肌が立つくらいの可能性は秘めてる良い文章だと思います。 惑星キミは「出会いなんて星の数だけあるなんて言うけど僕にとってキミにとってそれは一つでいいだろ」というところが大好き。糖度抑えても印象に残る言葉はあるんだなーと、ふと思った。
忠犬ヤス公 8/26 0:15	胸キュンですね。ニヤニヤがとまりません。
一分間 8/26 0:16	顔から火が出ます(笑) ただ「海」というテーマを無理やり当てはめた感じが……。
弟子 8/26 1:17	月はずるいよね。 会うたびに姿を変えて どれが本当の月なのか分からない。 でも、それでも月を見ていたから 姿を消すのだけは、やめておくれ。
ハチミツ 8/26 10:18	海っていうか月のお話になっちゃってる気がしました。 月の満ち欠けと海の潮の満ち干き、ってことなのかもしれませんが。。
こっくん 8/26 21:59	最後のセリフはもっと行間を空けてほしかった。 それ以外では文句ないです。すっきりした文章で、映像が浮かんでくるような作品でした。
赤ずきん 8/27 1:4	甘！！ 月の話を恋愛表現に絡める持っていきかたはお見事です。

[TOPへ](#)

第01回 あざらし川柳大賞

総合順位：2位
合計ポイント：27 Point
作者：あざらし
作者コメントはありません。

▼大賞

やれみるな そこにおちてる 布切れを / 鹿児島県 28歳 星静さん

▼入選

砂の穴 埋まるときだけ ナイスバディ / 宮城県 34歳 BLTさん

キラリ光る 砂に埋もれた 我が親父 / 東京都 16歳 阿坂祐樹さん

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 8/20 9:57	こんな発想もあったか！と思ってしまいました。 すごいなあ！ コラム、1500字という言葉にしばられない、豊かさを感じました。
木星/dx 8/20 11:13	アイデア素晴らしく、インパクト大。 但し、初見時の衝撃が去った後、何が残るかが重要。 さて、どうなるか・・・
結政 8/20 13:15	ペンネームにも一工夫が欲しかった。 たしかにインパクトは大きい。 一つ一つの川柳はうまいのでそれだけにとどまっていないのが すごいと思いました。
茜 8/20 19:19	海って単語がないのに海。うまいと思う。 あとはこの川柳がどこまで深読みできるか。だと思う。
きしと 8/21 11:40	なぜあざらし？！というツッコミはおいといて。 少しネタの数が少なかったのでは？ あるあるネタ的なものの列挙だから、共感できるものが増えるだけ、楽しみも増すと思います。

key 8/21 12:59	ごめん、ネタがよく分からない……。でもアイデアは良いと思います
地紅晴酸 8/22 16:14	・・・新しい世界が見えたような気がしました。
あそびにん LV.2 1 8/22 16:41	ペンネームがネタじゃないのが逆に新鮮かもしれない。 きしとさんと同感で、少しネタが少ない感はあるかも。一つ一つはくすくす笑えるから、そのままの勢いでせめてあともう2、3個は欲しかった。 どうでもいいことながら、▼って調べなおして機種依存文字じゃなかったんだと今更知ったあそびにんなのでした。 どうせだから、一本くらいは川柳大賞に応募しようかな……センスは無いけど。 ねえ彼女 振り向くあの子に 薄くひげ
lily 8/22 23:51	川柳って面白いなと思いました。 大賞のやつが一番好きです。
ばっは 8/23 3:42	この作品は私のなかのお気に入り では私も一句 サーファーが 練習してる モテるため
Tohma 8/24 2:22	おお！まさかこんな方法が！ と感心してしまいました。 これはあざらし目線で書いた川柳じゃないのかなあ……なんて最初思ったんですが、多分違いますね。 でもタイトルが気になって気になって……。なぜ「あざらし」！？
ピロ 8/24 2:57	アイデアがおもしろい。 お題の「海」って言葉を一度も使わずに海を表現しているのがうまいですね。
pencha 8/24 8:23	楽しく読めました！ 「あざらし」川柳の意味が知ってみたいです。 実は川柳の作者名と何か関係あるとか…？
Eisen 8/24 8:55	拍手！ では私も一句。 砂浜で 水着忘れて 落とし穴 こないだ熱海に行ったときの実話だったりします。 ハマってくれて嬉しかった。
あそびにん LV.2 1 8/24 10:24	>あざらし 海豹だからさ！ だからどうしたといわれればそれまでけど（汗） >ばっはさんの句 あるある（笑） もっとシュールなのは、サーフィン出来ないのに格好だけサーフボードを抱えて歩いてるとか。案外でいる気がする。実際どうなのかは知らないけど。 >Eisenさん 拗ねていたずらかよ！ はまった人、南無。 あそびにん的には、B L Tさんの句が一番好き。
He 8/24 20:52	読んでみてまず笑った。そしてその上で、何だか不思議な印象が残った。ネタなのにネタじゃない何かにも見えるような感じ。
神無月 8/24 22:1	インパクト大ですな。このわずかな文章で、きっちり笑いどころを作ったのは賞賛に値すると思います。面白い！
ヤンヤンマ 8/25 12:38	こんなのもアリ?! がまず第一印象。 あと、ささいなトコだけどペンネームが一人だけ漢字じゃなくてB L Tってのも気になります…
忠犬ヤス公 8/25 13:5	伊藤園のお〜いお茶、伊藤園新俳句大賞を連想したのは私だけではないはず。

えむえむ 8/26 13:14	ありそうでなかなか出ない発想ですねえ。あと、大賞の鑑賞が難しいでね。どういうことなの？
こっくん 8/26 21:52	サラリーマン川柳みたいな感じでよかった。 もうちょっとそれらしい年齢だったらよかったかなあと(笑

[TOPへ](#)

海＝波＝ポロリ

総合順位：3位
合計ポイント：26 Point
作者：ばっは
作者コメントはありません。

なぜ、人は海に行くのだろうか。誰かは言った「そこにポロリがあるからだ」と。

海を見に行くのと海に入るとでは天地の差がある。海を見に行くのに必要なのは、隣にいてくれる大切な人と交通費。海に入るのに必要なのは自分自身のナイスなボディ。男は役にも立たない胸板を鍛え、女はくびれを得るためにラマダンに入る。

女性はそのうえにすっぴんが重要視される。そのことからヤマンバは水が苦手であることが過去に実証されているらしい。普段見慣れない姿が生み出すギャップが、よい結果を導くとは限らないのである。そして、見せて困るものを見せられても困るのが男心というものである。

では、なぜ人は海を見るだけでなく、海に入るのか。さまざまなトラップともいえる数々の事故が付きまとう海に行くのか。塩が好きだからという理由だけでは解決できない。そう「ポロリ」である。（ポロリについて厳密に説明を加えた場合、原稿用紙二十枚でも足りないので、ポロリの意味合いについては諸君の基礎知識にゆだねることを先に明言しておく）

独り身の男性グループはもちろん、たとえ付き合いが長いカップルであってもポロリが見たい、聞きたい、歌いたい！

理由はチラリズムが起こす無限の可能性。わからない人は、チャイナドレスか浴衣＋温泉卓球からやりなおすべきである。

ポロリとは日本男児の文化である。波のプールは何のために強い波を起こすことができるのか！ウォータースライダーの出口がなぜときどきするのか！なぜ、水着が紐であるべきなのか！

すべてはポロリの頻度と確率をあげるためである。偶発的でなければ意味がないものを誘発的に起こすという矛盾と日夜私たちの大和魂は戦っている。もろだしを忌み嫌い、閃光のような、天使が与えてくれた一瞬の輝きを私たちは待っている。テレビ欄の「水着大会！ポロリもあるよ！」という見出しに何度騙され、激怒したか計り知れない男は多い。しかし、私たちがあきらめたことはない。

ひときわ強い波とともに、女性の「きゃっ」という悲鳴があがった瞬間。そこに時は止まり、私たちの視線はその子の谷間の中。そこにあるべきブラがないことを無意識に望みながら、欲望の魔眼を飛ばす。たとえそれが勘違いだとわかっているても！

胸が見たいわけではない。ポロリが見たいんだ！ポロリを一度でも望んだことがある人は、今一度、あなたの中のもっとも美しい人のポロリを想像してほしい。そこにはきっとあなたを救う光があるから。

私たちが「ポロリ」という言葉を聞き流せる日は来ないだろう。

ときどきでいいから、なくなってしまったバブル時代の水着大会のことを思い出してください。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
わがし 8/20 9:40	名乗らなくていいのかな?? ひとこと、面白いです。こんな感じも許されるのですね（笑） 海からポロリに行く発想の豊かさ？がとても楽しいです。 今後にも期待します。
わがし 8/20 9:40	すみません、左側に、勝手に名乗ってました(^^ゞ 今後ともよろしく願いいたします。
木星/dx 8/20 11:6	導入部は結構期待させてくれるのですが、「ポロリ」の一点張りになってからは、なんともかんとも・・・つまらん。 一人で興奮している感じ。子供っぽい。ビックリマーク目障り。
木星/dx 8/20 11:40	爆発のための爆発になってしまっている。 爆弾を仕上げてから爆発させてほしかったナ・・・
茜 8/20 19:24	ばかばかしさがいい。 独りで勝手に突っ走ってるのが、却って良さかも。 複数で興奮されたら怖くてあたし泣きます。
結政 8/20 22:4	なんだか、勝手に暴走しておしまいって感じがしていやです。 勝手にやっておいて欲しいと思ってしまいました。 馬鹿馬鹿しさに入れるかどうか勝負でしょうが 私は入っていけなかったです。
木星/dx 8/20 22:28	えっちさが全然なく（笑）暑苦しい（涙） 熱帯夜には決して読みたくない。 だって目に浮かぶのは…… アブラギッシュであか抜けない若者が、放課後似たような子分を数人集めてどこかの壇上で、得意になって真っ赤な顔で唾を飛ばしているんだけど、女生徒たちには強烈にきもがられ、避けられているといった、余りにうら悲しき光景。。
さむらす 8/20 23:10	正直こういう話はすきじゃないですが、「塩が好きだからという理由だけでは解決できない」というセリフは気に入りました。
木星/dx 8/21 1:9	語り方を変えれば面白くなりそうなエッセンスは沢山あるのに。 この手の話は、変に熱くならず、淡々と責めた方が面白かった。
鬼☆おん 8/21 1:34	>胸が見たいわけではない。ポロリが見たいんだ！ 共感せざるをえない。 同義的に女子高生のスカートとかね、別にパンツが見たいわけじゃないんですよ。
きしと 8/21 11:49	自分的魅かれたタイトルの作品第一位 とりあえずポロリに対する熱い情熱はしかと受け取りました。

茜 8/21 13:48	木星/dxさんのコメントを見てて、 こんなばかばかしい内容を、もっともっと科学的っぽく淡々と語られたらそれはそれで楽しいなあ・・・と。 アブラギッシュな感じはあんまり思わなかった。 ただ、いくらわめいても、ホンモノの女の子が目の前にいたら逃げ出しそうな気はしたけど。 あとチラリズムっていいですね。（何）
で〜もん 8/21 18:16	タイトルのインパクトはダントツでした。 バカバカしくて、さらに「ある程度」共感できるところがいい。全て共感できたら、なかなかの変態だと思う。 >>木星/dxさん 共学でそんなことやる勇気がある奴いたら、感動します。これはおそらく男子校のノリかと。
RincO 8/21 18:35	タイトルがとても上手いと思いました。 数ある作品の中で『気になる』作品をタイトルだけで大抵の人は選んでいると思うし、それに劣らない内容もとてもよかったです。
老若男女 8/21 19:56	くだらない事をマジマジと語るところにアメトークのガンダム芸人特集と似たものを感じた。斬新さはないけど、普通に面白い。
zoo 8/21 23:40	このばかばかしさを追求し続けたことに脱帽。 論理的に並べるのはなかなか大変だったと思う。 全作品を読んでインパクトが強かった。
木星/dx 8/22 0:49	普通に面白い、というのはわかる気がする。 でも、エキセントリックな割に、普通なんですよ。 普通のエキセントリック・・・
ペピン 8/22 10:48	茜さんの投稿でチラリズムって良いですよって、普通に書いてあったことがなんかやけに引っかかる。まあ、女子高生の短いスカートなんか私からすれば何欲情してるんだかって思いますけどね。 作品は個人的な主観が入ると面白いんじゃないかな？軽く変態っぷりを見せると、面白くはなるけど人からは退かれるけどね。
ねがいびと 8/22 12:56	タイトルの付け方が上手い。数ある作品の中で目を惹き付けられた。 ただ、せっかくこういったテーマなのだから、もっと暑苦しく、暴走した文体で書いても良かったんじゃないかと感じた。もう一、二枚、バカの殻を破って欲しかった。
あそびにん LV.2 1 8/22 18:3	アホだね！（褒め言葉） 「塩が好きだからという理由だけでは」にそんな理由だれが持つかよ！って突っ込みたくなったり、「見たい、聞きたい、歌いタイ！」に懐かしいと感じてしまったりするあそびにん。 2段落目が一番好き。 ……でも、正直3段落くらいまででお腹一杯。というより、4段落目から熱く語りだされたらちょっぴりしらけた。 まあ、とりあえず、最後までついてきてくれた奇特な人のために、最後まで熱く語った方が良いかも。最後の一文、あまりにも落ち着きすぎな気が。
colt 8/23 3:36	女だらけの『水泳』大会じゃね？と突っ込みつつ。 この暑苦しさは大好きです。たとえコメント欄で賛否両論あろうと、僕はポロリを支持します。 チラリズムって本当に素晴らしいですね。 ……最後、不時着したようにも思えました。鳥人間コンテストの着水直前のようなうろろ感が残念。ドスン、と腰を下ろして欲しかった。
Asagi 8/23 8:22	全編から滲み出てくる勢いというか暑苦しさはなんなんだろう。 すっぴんの話、最近はサーフィン向けの耐水マスカラとかアイラインとかも出ているそうですよ。 ヤマンバも生きやすい世の中になりました。

Tohma 8/24 2:18	こういったぶっとんだ話は結構好きです。 何気に共感できますし（笑 ただやはり「！」の多用が目についてしまって……。強調したい文にだけつけるほうが効果的だと思います。最後の一文が浮いた感じになってしまっているのも残念です。
Eisen 8/24 9:17	熱い。熱苦しい！（笑）
kiku 8/25 9:14	1000文字以上もアレゲな情熱に注ぎ込んだのが素晴らしい！ 1500字制限内じゃなかなか書きたいことが書けない以上、このくらいが丁度いいなー。 # 歌うのかっ！
忠犬ヤス公 8/25 12:21	こんなのり、私は大好きです。馬鹿馬鹿しいことを熱く語る！ポロリ最高
ヤンヤンマ 8/25 12:50	馬鹿らしいことを、暑苦しいほどに、熱を込めて力説する…こういうの正直好きです（笑） ただ、やはり最後の一行が残念ですね。うまく締めくくってくれたらなあ…
aki 8/25 23:37	最後の一行なくてもきれいにまとまると思う。 むしろ二行なくてもきれいにまとまると思う。
弟子 8/26 2:0	よく分からないけれども 春よりも秋を愛でる感覚に似ている気がする
エスィフィア 8/26 21:19	おもしろいです。 長めの作品なのにどんどん読んでしまいました。 暴走気味なところも好きです。
のろろ 8/27 1:7	いやらしさが感じられなくて良いと思います。最後の一文はあのゲームから引用した遊び・・・！？かな

[TOPへ](#)

漂流物

合計ポイント：25 Point

作者：カケラ

作者コメントはありません。

毎朝犬のマリと海辺を散歩する。それがこの別荘に来てからの私の日課です。

この海辺は面白く、いろんなものが流れ着きます。潮の流れとかが影響しているらしいです。今日も何か流れ着いていないか、楽しみにしながら家を出ます。

「ほら、マリ、そんなに引っ張らないで」

家を出たとたん元気いっぱい走るマ리에、リードを離さないよう私も必死で走ります。何とか歩かせようと踏ん張るのですが、まったく敵いません。結局マリが満足するまで走らされました。

「もう、あなたは、足が速いのだから、少しは抑えて、走りなさい」

肩で息をしながらマ리에訴えます。マリは知らん顔で、全く聞いてくれないのですけれど。

マ리에文句を言いながら歩いていると、何かが転がっているのに気づきました。何でしょう。ビニールで包まれています。いつもと違う漂流物に期待が膨らみます。

マリが歩き続けるのをリードを引っ張って止めさせて、私は漂流物を拾いに行きます。

驚きました。

ビニール袋を取り除いてみると、中から出てきたのは麦藁帽子でした。

「これは、もらってもいいのでしょうか」

しっかり口が閉じていたため、麦藁帽子は新品のようにきれいです。かぶってみます。

「似合いますか」

マ리에聞いてみます。返事はなし。当然です。

帽子は持って帰ることにしました。使わせてもらいます。

「帽子だって、ただ捨てられるよりはその方がうれしいはずです」

何かに対して言い訳しながら、家に向かい歩きます。マリがいつもより少ない散歩に抗議の声を上げますが、無視します。先ほどの仕返しです。

家に帰ると真っ先に部屋に行き、鏡の前に立ちました。似合ってます。気に入りました。

帽子を勉強机の上におき、ベッドに腰掛けます。のんびりと部屋を見渡します。

机の上にはきれいなビンと、その中にビー玉があります。手首には昨日拾ったブレスレットが。

「結構増えましたね」

そう言いつつ手を伸ばした本棚の上には、貝殻と野球ボールがおいてあります。そこから読みかけの本を取り出し、ベッドにうつぶせになります。そのまま夜まで本を読んですごしました。

翌日。昨日に続いて快晴です。

「早速役に立ちましたね」

私は麦藁帽子をかぶって上機嫌です。いつものように支度をして散歩に出かけます。

今日はさほど歩かずに不思議なものを見つけました。四角い、サラリーマンが持っていそうな鞆です。

開けてみます。

驚きました。女の子向けの洋服が入っています。

「私にも着れそうですね」
喜びかけて、怖くなりました。
不気味です。鞆と中身がかみ合ってません。どうして私にぴったりのサイズなのでしょう。昨日流れ着いた帽子も、一昨日のブレスレットもサイズが合っていました。どれも濡れないように守られていました。
考え込む私に、マリが文句を言うようにほえました。リードが引っ張られます。
私は立ち上がり、周りを見回して、息を呑みました。遠くの岩山の上で、光が反射しています。影が動いてるように見えます。
影が、はっきりと引っ込みました。
私は力が入らない体で、マリに引きずられるように歩き出しました。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
RiZEL 8/20 11:28	文体が凄く良い感じ。 某零世代作家を髣髴とさせる語り口。 わざとオチまで書かないで、あるシーンを切り取ったような仕上がりになっているのが個人的にとっても好きです。
鞆 8/20 15:51	文体いいですね、RiZELさんに同感です。 話としてのすっきりした纏まり具合もいい感じです。 作者さんの文章力を感じました。
茜 8/20 18:56	3つ目の台詞から口調が変わったのに違和感。文体はあたしも好き。 ミステリーだけど、どこか物足りない。 想像をかきたてる伏線がもうちょっと欲しい。
He 8/20 20:43	地の文の雰囲気がいいなあ、と。ただ、マリに語りかけている感じでもない何ヵ所かの「」に少しだけ疑問を…。 それと、タイトルについて。下まで読んでやっとタイトル「漂流物」の持つどこか暗い雰囲気（個人的なものかもしれませんが）につながるのが何ともいえず、良かったと思います。
きしと 8/21 11:32	怖い話的なまとめ方をしつつ、 あえて結末を描いていないところが逆に想像を掻き立てさせました。
イッパイアッテナ 8/21 14:2	これは、面白い。 はじめ、麦藁帽子が唐突で、あれ？と思ったけれど、最後まで読んだら逆にそこが生きてきて、うまく収斂したと思う。文章の調子も自分好みだし、間違いなく一押し。
key 8/21 14:13	最後にもうひとオチ欲しいと思いました。面白かったです。字数が結構厳しいのかな…
こえい 8/21 15:25	文体は、良いとは感じませんが、 とても楽しく読ませていただきました。
で〜もん 8/21 16:13	文体がしっかりしてていいですね。皆さん書いてますが、あえて結末を書かないところが非常に上手い落とししかただとおもいます。
木星/dx 8/21 20:31	○☆これはかなりいいかも☆○
Begonian 8/21 20:43	良いとは思いますが、何かが足りない気がする。 茜さんの言うとおり、それは伏線かも知れない。 コラムランドで喩えると、「乱入は成功するけどコンテストでは0ptの作品」みたいな印象を受けた。(わかんない方ごめんなさい)

あそびにん LV.2 1 8/22 13:1	読んでふっとキ○の旅を思い出したあそびにん。文体のせいかな？ 内容的には全く関係が無いけど。 二番目の麦泡帽子のシーンを持ってきて、三番目の服でさらっと一番目と思われるブレスレットを拾ったときのことも想像がつくのが字数制限の中文章を削る意味でもうまいと思う。 それだけに、もうちょっと茜さんやBegonianさんの言うとおりの漂流物以外の怪しい影が絡んでいるかもしれないことがあると良かったかも。 影が動いているところで光が反射してるって、影の正体はハg（ここで文章は途切れている）
ねがいびと 8/22 13:18	敢えてですます調で書くことによって、怖さがより浮き彫りにされているところが上手い。締めくくりも文句なし。彼女がこれからどうなってしまうのかが気になるところ。
ぼっは 8/23 3:48	深夜に流し読みしている私が悪いのだが、想像できない・・・。 余韻が全く感じれないのは体力のせいもあるが、ラストの二行の練りが弱いかな
colt 8/23 3:56	残暑の夜、心なしか少し涼しくなりました。怖っ。 文章力がすごい。丁寧語文体って難しいんですよね。ラストへのさり気ない伏線も（麦藁帽子って、水入らないほどびっちり包装されませんよね）素晴らしいです。 ただ、主人公。モノ、拾いすぎです。さすがに、拾ったものを身につける人はなかなか居ないでしょう。
結政 8/23 10:22	好みが分かれるだろうと思いました。 何が起きているのか、想像を求めているような点は私は好きなのですが。 主人公の像を紙縫りに見立ててしまっって ちょっと終わってるなあ自分ってと思ってしまいました。
ルムルフ 8/23 17:50	物語の起承転結で言えば、起の部分だけのようですが、 それでもバランス良く収まっていて、楽しめる作品ですね。 字数制限で仕方なくというよりは、起の部分だけ書いてあることで、 逆に想像力をかき立てられるようで、効果的という意味で成功していると思います。
神無月 8/24 22:35	いい感じですよ。こういう、直接的でない恐怖の表現は大好きです。僕が出来ないから。 文章的にも好みだし、余韻も残ります。とても良い作品だと思います。
kiku 8/26 10:47	いい感じの文体。 最近読んだ『人類は衰退しました』を思い出した（マイナーで申し訳ない）。 この後、この一人称が恐怖でどんな風に歪むんだろーな、てなトコに興味がある。
赤ずきん 8/27 1:9	得体の知れない気味の悪さが残るところは好き。 でも、ちょっとオチをばかしすぎな気も。
袋小路 8/27 1:21	続きを想像させるにはちょっと振れ幅が大きいかも？ でもそこも含めて気に入ってます。 続編希望！

今週のお題

開催中： 嘘

投稿受付中： インターネット

Column Land

■嘘です！

■海の結果は「アーカイブ」からどうぞ。栄光の初回首位はっ？

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

月の海

合計ポイント：23 Point

作者：Eisen

作者コメントはありません。

母と妹につきあって、隣町まで映画を観に行った。なんとなかって小説が原作の、ちょっと話題のS F映画。制作費ウン億円とか、CMでバンバン流してるヤツだ。

正直、あんまり気乗りはしなかった。もともと映画は好きじゃない。観ているあいだは楽しいかも知れないが、終わった後のダルさというか、現実と空想とのギャップが好きになれなかった。

それでも俺が映画館に向かったのは、駅に貼ってあったポスターに、ちょっとひかれたせいらしい。紙面いっぱいのでっかい月と、異星人のものらしい宇宙船。まあとりあえず目立つだけで、たいして面白いものでもなかったのだが……。

ただ、このポスターを見つけたとき、なんとなく頭に浮かんだ単語があった。

“月の海”

月の海。この言葉をはじめて知ったのは、たしか小5のころだっただろうか。当時の俺は、それが何かも知らないくせに、この言葉をえらく気に入っていた。

だって月だぜ？「月」に「海」だぜ？あの空に浮かんでいる、丸くなったり細くなったりするあの月に、よりもよって「海」なんだぜ？

似合わないったりゃありゃしない。似合わないすぎて……。

……ステキじゃあないか。そう思った。

ガキだった俺は、ベッドのなかで夢想した。

なにかのテレビで見た光景。ごつごつの白い石と、まっ黒な宇宙にかがやく星空。丸くていかつい宇宙服を着たガチャピンみたいな宇宙飛行士が、なぜかどっかの国旗を抱えている。車とかバイクはとにかくヘンな形だ。

そんななかに、海が広がっている。

つんとする潮のにおい。うるさいけれど嫌いじゃない波の音。なま暖かいしめった風。

海があるなら魚がいるだろう。サメとか、エイとか。クジラもいるにちがいない。それからサンゴにイソギンチャク。やっぱりコンブが浮いているのだろうか？ワカメなんかは？

月の海を白いクジラが泳いでいる。クジラはザパァ！としおを吹き、しぶきは宇宙にまき散らされる。俺は大きなモリを片手に、白い小船で追いかける。

夢想はそのまま、心地よい夢になっていく。

いつだったか。とにかく当時の俺にとって、少しあとになってからだ。

学校の授業でのこと、科目は理科だった。いつもはほとんど寝ているのだが……この時だけはそうもいかなかった。スクリーンに映し出されているのは、月の拡大写真。

タイトルは、「月の表面」。

そこには海なんかなかった。ただの荒れはてた白い月が、どこまでも続くだけ。魚もいなければコンブもな

いし、ましてやクジラなんて影も形もありゃしない。
 どうしてか自分でもわからないのだが、ムカついてムカついて仕方なかった。トイレに行くと嘘ついてフケたあと、そのままその日はサボってしまったぐらいだ。

映画を観た帰りの電車で、俺はそんなことを思い出していた。
 いま考えてみれば、あのムカつきは映画と同じだったのかも知れない。映画を観終わったあと、夢から現実
 に引き戻されたときの、あの不快感と同じなのかも知れない。
 夢を見た俺が愚かだったのか、夢から引きずり出した教師が残酷なのか。それはよく分からないが。

……なんて話を妹にしたら、
 「バカみたい」
 と笑われた。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 8/20 18:58	なんで最後の「妹」って単語がひっかかるのかしら。
ふじさき 8/20 22:31	似合わなすぎてステキって表現が、いい味だしてます。
Asagi 8/21 3:16	「月の海」というたったひとつの言葉から広がっていく想像と、 そのあと事実を知ったあとでがっかりして拗ねてしまった対比がすごくかわいい！ でもそのぶん最初と結びはちょっとインパクトに欠ける感じです。もったいない。
で〜もん 8/21 18:0	文章力がなくて、すごく読みやすかったです。月の海に関する少年の夢がとても子供らしくて好き。
老若男女 8/21 20:12	最後の3行除いては話のテンポもよくていい感じだと思う。月の海に対して思い入れがあるっていうのもけっこう斬新に感じた。でも、最後のオチが弱い。
あそびにん LV.2 1 8/22 16:25	なんだか良く分からないけど無性に好き。 特に、ふじさきさんと同じく、似合わなさ過ぎて……。……ステキじゃあないか。の部分が大好き。 ラス前の段落もうまいこと冒頭のSF映画等を見に行くのが好きじゃないって話につなげてるとは思う。ただ、どうせつなげるのなら、見終わっての感想とつなげるみたいな感じにすればいいのにとか。どの道インパクトには欠けるのかもしれないけど。 あそびにん的には、バカみたいってオチもいいと思う。バカなことを考えたりやったりするのが男というものです！（なぜか大威張り）
イッパイアッテナ 8/22 22:48	なんか、共感できるなぁ。自分も、星を金平糖だと思って、宇宙への興味を抱いた口(今も現在進行中)なんで、この作者の想いが強く伝わりました。 つーか、いいよね。"月の海"って表現。考えた人誰なんだろう？ なんてね、話が膨らむ膨らむ。 自分にとって、心が躍らされた素晴らしいコラムでした。

結政 8/23 0:10	月の海という表現に行き着いたのがまず目から鱗でした。 なるほどなあ、と。 落ちの弱さは他の方の指摘していらっしゃるとおりですが そこまでの流れがよく、楽しく読むことができました。 > イッパイアッテナさん ちなみに、月の海という表現を考えたのは ケプラーさんです。 何でも（水がある！？）勘違いから生まれた表現だそうです。 その後の命名はこれに従い、平原には水に関する地名をつけます。 沼とか、入江とか。
pencha 8/24 8:35	「月の海」に惹かれて見てみました！ コラムのタイトルの重要さを感じました。 > 「バカみたい」 現実的な反応，でも，ありそうです。
神無月 8/24 22:20	“月の海”という単語と、その情景ノックアウト。いい作品です。これ。 締め方も個人的には好き。「バカみたい」で終わるところに、なんとなく理解されないロ マンを感じました。仕方ないんだ！ 一度はバカになるもんなんだよ！ いい感じです。
ねがいびと 8/25 11:4	タイトルがロマンチックで目を惹きました。構成が上手で、非常に読みやすかったです。
忠犬ヤス公 8/25 12:48	月の海ってなんか神秘的でいいですね。月の神秘繋がりで、月にウサギがいると思っ ていた若かりし頃を思い出しました。
otacom 8/26 1:42	すごい場景が浮かぶので気に入りました。
弟子 8/26 2:55	月の海、っていうことは 月があたり一面に、そこらじゅうに転がっているのかな？

危険地帯

合計ポイント：23 Point

作者：茜

作者コメントはありません。

黙々と前を歩く男のあとについて、黙々と歩いていた。
日が沈んだあとの薄暗い町並みは、水の底みたいに青く染まる。

――危ないから、深いところへ行っては駄目よ。

ずっと昔、海で母に言われた言葉を、思い出していた。

覚悟はしていた。つもりだった。
でも結局そんなものは何の役にも立たないんだな、と、改めて思う。
ほんとうにその場になれば、ひどくあわててしまって、ぎゅっと握り締めてきた彼の手さえ、びっくりして振り払ってしまった。迷子になった仔犬みたいな彼の瞳を直視することもできなかった。見たら、きっと、泣いてしまっていた。
それから彼は、何も言わずに前を歩いている。
うつむいたまま、彼の足元を追って、わざと歩調をずらして歩いたら、ひどくおぼつかない歩き方になった。
仕方なく歩調を合わせて歩く。でも、なんだかそれは、とても怖いことのような気がした。
気まずい沈黙。青い町並み。息苦しい。もしかしたらここは、本当に水の中なのかも知れない。どんどん暗くなっていく青い町並み。深く深く、もぐるみたいに。

――そんなに遠くへ行ったら、溺れてしまうわよ。

だったら、どこまでなら、行ってもいいんだろう？
どこまでだったら溺れないんだろう？
でも、もう、遅い。
たぶん、もう、とっくに溺れてる。
このまま深い深いところまで沈んでしまえたら、いっそ、心地いいのかもしれないと、そんな馬鹿なことまで考え始めてしまっているのだから。
いいの？
ドアの前で、彼が言う。
いいよ。
と、答える。もういいよ。ここまできたのなら、一番深いところまで、連れて行ってよ。
かちゃり。
背後で鍵のかかる音がした。
真っ暗な部屋。光の届かない、深い海の底みたいな。

――危ないから、深いところへ行っては駄目よ。

ずっと昔、海で母に言われた言葉を、思い出していた。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
鞆 8/20 16:8	情景が目浮かびます。一人称の視点で見える世界がはっきりしていて、すんなりとイメージが作れる感じ。 もっと色々言いたいことはあるはずなのに、うまく言葉になりません。うーん。
茜 8/20 19:2	地帯って、海に対して使うのかしら？ 「迷子になった仔犬みたいな彼」が、海と離れてて違和感。
key 8/21 15:17	好きです！良い！！ タイトルと雰囲気は合っていないのがちょっと残念ですが、この雰囲気は大変好みです。茜さんのご指摘のように、危険水域とか危険海域の方がせめて良かったかな。 次回作にも期待！です
朱雀 8/21 21:36	どんどんと深みにはまって行って戻れなくなってしまう自分。うまく表現できているのではないかと思います。 どういう状況でこういう事態になっているのか、もう少し特定できるようにヒントが欲しいといえば欲しかったのですが、それでは海から離れてしまうので、この場合必要ないですね。 タイトルは、惜しかったですね。といっても、他の方もすでに指摘されているので、詳しいことは割愛で。 最後まで一定のリズムが保たれ、読みやすい作品でした。 私の言葉がこれからの作品作りに参考になれば幸いです。
あざらし 8/22 10:53	作品のテンポ、雰囲気ともによかったと思います。どういう情景なのかをかなり把握できるように作られたよい作品でした。 しかしながら、事情を若干読み取りにくいかと。私の読解力不足もあるかもしれませんが、もう少しだけ伝わりやすい文章だったらなあ、と。
結政 8/22 12:54	他の方同様に、タイトルが気に入らなかったです。 微妙にあって無い気がします。 それでも、雰囲気はすごくよくできていて その点は良かったかと思います。
あそびにん LV. 2 1 8/22 15:9	他の人が言うほどタイトルは気にならなかったけど、状況の方が気になったかな。 一番最初に思ったのは交際がドンドン深くなっていくみたいな感じだと思ったんだけど、それだと振り払ったけどついていくって何か意味不明な気が。まあ、その解釈だと、迷子になった子犬みたいな目ってのはしっくり来るんだけどね。 読んでいてテンポ良くずっと読めたのはきっと文章力の賜物。深いところに行っては駄目よの注意もうまく働いていると思う。 それだけに、状況に違和感を感じてしまったのがもったいない気がした。
melonsan 8/22 21:46	援助交際を思い浮かべましたが、「迷子になった…」の部分が、不釣り合いですね。 雰囲気から、きわめて不健全なお付き合いという印象を受けますが、どうなのでしょう。 危険地帯は、良い子行ったらダメよ、な場所として、現代の出合茶屋をイメージしてのチョイス？ ブラウザに依るのかもしれませんが、行間のとりかたが見事です。
colt 8/23 1:47	まず、やはりタイトルが大きく浮いているのが残念です。全体の雰囲気が良く作りこまれているだけに、これは大きいと思います。 あと、僕の読解力不足のせいか、状況がうまくつかめていません。これは出会い系ということで宜しいのでしょうか。 全体として見れば、良い作品だったと思います。おみごと。

ばっは 8/23 3:15	細かい表現に少し疑問が生まれるが、今まで読んだ中ではダントツ。ちなみに今のところ5作品目。 うまい文章だった。いやはや、なかなか
茜 8/23 23:11	出会い系や援助交際ならおかーさんは「深いところへ行っちゃ駄目」じゃなくて「近づいちゃ駄目」って言うんじゃないかしら。 ごく普通の恋だと思う。入り口は。波打ち際で遊ぶくらい安全な。気がついたら深みにはまってるって、よくあることだし。
Tohma 8/24 2:23	僕が感じた印象を一言で表わすと「ひと夏の冒険」といった感じです。 なんていうか少女マンガにありそうな。 まあ、少女マンガはほとんど読んだことないんであくまでイメージですけど。 心理描写が自分にはヒットして、今回一押しの作品です。
Eisen 8/24 7:29	なんというか……少女漫画なんかによく登場する、夢見る乙女の描写ですね。映像的な表現が秀逸です。 実際にそういう場面にあって、こういうことを考えている女のコがいたらヤだなあと……思ってしまうのは、ナンセンスなのでしょうね、うん。
あそびにん LV.2 1 8/24 9:44	出会い系とか援助交際とかでは絶対ないと思う。出会い系とかだったとしたら、手を振り払ったのは怖くなったの行動であるはずで、迷子になった仔犬みたいな瞳をみて安心することさえあれ、泣くことはないと思う。まだ普通の恋愛の方が納得が行くかな。 >茜さん 海でのお母さんの言葉なのに、「近づいちゃ駄目」って意味不明な気が。どこに？ まあ、普通の恋愛というのは同意。 >Eisenさん あそびにん的には、結構こういう心境になりうるんじゃないかなあ？と思ったな。実際のところは男には分からないところだろうけど。
茜 8/24 10:22	>あそびにんさん えっと、もし援助交際なら、「近づいちゃ駄目」って言えるようなものをモチーフにするかな？と。海じゃなくても。 今は海の回だから、こういう台詞なんだろうけど。 ところでこの大学入ってからずーっと気になってるんですが、いわゆる「乙女心」ってそんなに男の人には理解できないものかな？って。 理解できないって言っちゃうと、あたしは作品の9割が読めないことになっちゃいかねないので。
茜 8/24 10:23	あ、でも援助交際って違うかなとは思うけど、読み直してみてそうも読めちゃうんだな、って思ったから、そー言う読み方も面白いかも。 新しい読み方みたいなのが見つかるのがここの良さですしね。
colt 8/24 14:11	僕が、これが普通の恋愛でなく、出会い系だと判断したのは、彼女が一行目で彼を指して「男」と表していたからなのです。 普通の恋愛で、しかも深みにはまる直前、女の子が好きな人を「男」とばっさり表現するのでしょうか。ここでの距離感がそれ以降と噛み合わず、僕は混乱しました。 確かに、出会い系とするのも、あそびにんさんの仰る通り、所々不自然です。そこで次に浮かんだのは、村のシキタリやら許嫁やら、そうした双方望まない状況下だったのではないかという解釈だったのですが、それでは最後が単なるヤケクソになってしまうので、これも違いそうです。 うーむ、難しい……。
えむえむ 8/24 15:50	この作品のテーマがなかなかわかりませんでした。単純に犯罪に手を染めていくことなのか、それとも恋愛が深まっていくことなのか。
鞆鞆 8/24 16:3	>茜さん この作品についたコメントを見ている限りでは、いわゆる「乙女心」は多くの男の人には理解されていないように私には見えます、けれども。どうなんでしょうね。そうだとすると、少し寂しいことのような気がします。

鞆 8/24 16:27	とと、これだけじゃこの作品には直接関係のないコメントですね、ごめんなさい。 援助交際、不健全なお付き合い、のような、印象は、私は受けませんでした。彼女は彼のことが好きなんだと思います。恋愛感情と、未知の世界への恐怖感の間で揺れていて、だんだん恐怖感が麻痺してゆく（を麻痺させてゆく？）状態を表現しているように見えたが、うーん。どうなのでしょう。 coltさんの仰っている男という表現についても、別段違和感を感じませんでした。なんというか、ふとした弾みに、ああ、彼って「男」なんだな、って思ったり、しません？
茜 8/24 23:7	>鞆さん あ、なんか分かります。やっぱり「男」なんだな、って思いますよね。 というわけでごめんなさいcoltさん。あたしはふつーに「男」ってばっさり言っちゃいます。口が悪いだけかも。だから違和感じゃなかったな。
mendel 8/25 0:34	驚きの作品。「乙女心」の「お」の字すら理解できない私が、情景を、雰囲気味わうことが出来ました。作者の文才を尊敬します。 私も彼女は彼のことが好きだと読みました。援助交際とか、陰鬱なイメージは受けませんでした。文中にあるように、暗い深海だけれど、心地よいのかもしれない……。そういう感情が伝わってきました。 冒頭の「男」に関しては、母の言葉を思い出していた彼女が、一瞬だけ「彼」の事を、単なる「男」という生物として見てしまったのかじゃないかと思いました。彼女は、彼に恋をしつつも、母の言葉を思い出して少しだけ不安を感じていた。その不安が「男」という一文字に込められているのではないかな、と感じます。
木星/dx 8/25 2:43	援助交際、出会い系、かどうかはわかりませんが、これから始まろうとしているのが、そうゆうのに準ずるような『ちょっと危険な性交渉』であることは間違いないであろうという印象。 「迷子になった～泣いてしまっていた」のくだりで若干迷いを生じるのですが、「心地いい」「深いところ」等の表現にぞくとするエロスを感じる。かなり素敵。乙女作品にないものがここにある。
忠犬ヤス公 8/25 11:35	深い！！というのが第一印象。とってもすばらしい作品だと思います。是非続編をお願いします。
やまのかめさん 8/25 12:26	状況に具体性は必要ないのではないかと思いますね。踏み込むのか踏み込まないのか、その手前に立っている主人公の心情が主題であって、その心情描写が状況の詳細の説明を必要としない程に秀逸です。「海」の活かし方もとても良いと思います。
弟子 8/26 1:10	海は怖い、と思う。 空はいろんな色に染まるけれど、海には色がつかないから。 海に、色はないから。
二句 空佳 8/26 23:48	一貫性はともかく、ここに危険地帯というタイトルを持ってくるセンスは好きです。なんだか90年代のJ-フュージョンみたい。 榎本ナリコを読んだときと同じような、男には書けないよなあっていう感じです。多少マッシュプなので旧世代的である気もします。それこそ90年代の空気で、それもまたいいんですけどね
colt 8/27 1:31	あれ、ばっさりですか。 やはり乙女心は難しいです……。
赤ずきん 8/27 2:0	望んでやっていることで、嬉しいことのはずなのに、どこからもプラスの感情が読み取れないところに歪みっぷりを感じます。 きっと、海は溺れるところなんだよ。

海を越えて

合計ポイント：22 Point

作者：わがし

作者コメントはありません。

海を越えて あなたが帰ってきました

すっごく会いたかったのに 別に っていう顔をして

ただ おかえりなさい とだけ言ってしまった

久しぶりすぎて 何を話したらいいのか 全然わからなかった

遠くなってしまったのか まだ近いのか

飲み会の帰り道 二人で話せた

まだちょっと遠いような すこし違うような

なんだか色々 迷っていたり焦っているあなたを見てしまった

どうしたらいいのかわからなくなってしまって

家に帰って 明け方まで ねむれなかった

あくる日 友人にメールを書いていたら

あなたの悪口ばかりになってしまった

あそこが悪い ここが悪い もうあんなひとだとは思わなかった

仕事の手をやすめて ずっと打ちっぱなし

昼ごはんの時間が来て とりあえず送るのをやめてみた

あの時のように となりに座って ごはんを食べながら

成田からあなたの空港まで何時間 と聞いてみる

15時間くらいかな と さらっと言う

ああ もうそれは お金というより 愛の世界だよね と笑ってしまった

3月に出発する前日　一応のお別れをするのに　胸がいっぱいで

ただただ　お世話になりました　としか言えなかったわたしに

淋しかったら遊びにおいで　って言ってくれたでしょ

あなたが日本に戻ってきてよ　って思わず言ってしまった

友人に送ろうとしていたメールを読み返してみた

そこには　一生懸命　あなたをきらいになろうとしている　わたしがいました

海を越えて　あなたに会いに行ける勇気が　わたしにありますように

いつでもいつまでも　あなたのしあわせだけを　願い続けられますように

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
鞆 8/20 15:25	なんだか雰囲気がすごく好きです。好きな人への想いが感じられてほんわかした気分。 けれど、お金というより愛の世界、という表現が理解できないのは、私が子供に過ぎるからなのでしょうか。
茜 8/20 18:58	終わりから二行目がかわいらしい。 会いに行こうって、すぐ決心してしまわないところがいい。 ＞お金というより愛の世界 お金があるないよりも、愛がなくちゃ（というか馬鹿にならなくちゃ）そんな遠くまで行けないってこと。かな？
さむらす 8/20 22:56	ぼくもお金より愛の世界が理解できなかった。 けども、こういう恋愛の話は好きです。ナンパの話がおおいなかこういう作品があってうれしいです。
鬼☆おん 8/21 2:18	愛に国境なんてないんだろうね。
で～もん 8/21 18:24	小説になりそうな話を、あえて詩で語ることでより雰囲気を出していた感じがよかったです。こんな彼女欲しい(え
あそびにん LV.2 1 8/22 16:15	お金というより愛の世界はあそびにん的にも唐突な感じ。それまでお金の話なんて一言もしてないのにね。 あときらいになろうとしたメールの話を挟んで、あなたのしあわせだけを願い続けられますようにもちょっぴり違和感。 こっちも願い続けられる勇気がありますようにってことなのかな？ きらいになろうとしたって言うのは、逃げの手なわけだし。 総括としては、わたしの感情がずっと伝わってきていい作品だと思う。
ばっは 8/23 4:7	このような運命がリアルで待っている私の身としては、共感しすぎてつらい。でも、勇気付けられるいい作品でした。大好きな作品のひとつです

結政 8/23 10:26	他の方も指摘されていますが > お金というより 愛の世界だよね がやはり分かりません。 それは置いておいても、静かな語り方が 逆に共感を呼びそうです。 いわゆる ” 流行の ” 書き方なので、 その点は評価が分かれるかと思います。
Eisen 8/24 8:31	問答無用でお気に入りです。 ちょっとだけ問答するならば、 「昼ごはんの時間が来て とりあえず送るのをやめてみた」 と 「そこには 一生懸命 あなたをきらいになろうとしている わたしがいました」 が大好き。 また、彼女の置かれた状況について具体的な描写が殆ど無いのが好き。 オススメの作品です。
やまのかめさん 8/24 10:28	うー、最後の一行だけが不満。 これは恋歌であるべきだ、そうあるべきだ。恋歌に相手への愛情は邪魔。邪魔ですよ とってもいいのに、すごくいいのに。 ところでこれって ” 流行 ” なのですか？>結政さん
茜 8/24 10:31	変な話なんだけれど、 「お金というよりも愛の世界」ってことばの、よくわかんないんだけどなんとなくわかる よーな、奇妙な感じが結構好きです。あたしだけかも。
あそびにん LV.2 1 8/24 10:51	>やまのかめさん ああ、そういわれてみると。うん、そうだ。最後の一文がなくても十分まとまってるから 無くてもいいんだ。 あそびにんが感じた違和感も無くなるわけだし、印象変わってたかも。 >茜さん うん、まあ全く分からないわけでは無いんだよね。わたしや彼にとって、気軽にいけない 理由がお金ってのは十分ありえる話だから。 でも、やっぱりその説明がないし、直前の話は時間だし、変な気がするかなあ。 かといって、時間というより愛の世界も何か違う気がするけど。 よし、間を取って距離というより愛の世界にしよう（なぜに）
弟子 8/26 3:29	会うたびに、会いたかったよ、って言うんじゃないかっこ悪いよ 男の人っていうのはそう考えるものなのです
エスィフィア 8/26 22:14	すごく誠実な印象をうけました。きれいなコラムですね。素直に読める恋愛ものでした。
にび 8/27 4:36	すごくいいです。すごく好きです。 「お世話になりました」はという簡単な言葉に上手く意味を付加出来ていて、その後の 「遊びにおいで」「戻ってきてよ」という流れをきれいに作れてるんだと感心しました。 ただ最後の1行の「いつでもいつまでも」というのが個人的に違和感です。いままで空 間的距離の話をしていたので、時間的距離の話で締めるのがなんとなく変かな、と…ん？ いや、その二つは等価なのか、うーん。

或るひとつの情景

合計ポイント：15 Point
作者：RiZEL
作者コメントはありません。

この街の人間は、世界が球形である事を知らない。

四方を海で囲まれ、外界から完全に隔離された街。
見渡す限りの水平線。抜け出す手段も存在しない。

「ねぇ、世界の果てって、どんな場所だと思う？」ライカはいつものように僕に訊ねた。
この街で生まれ育った彼女は、それ故外側の世界に憧れる。
「・・・別に。果てなんてないよ、きっと」僕はいつものようにそれに答える。
「どうして？」
「そんな場所から来たって人間に、僕は会った事がないからね」
真実を知っている僕は、それ故外側の真実を隠す。

事実を説明したところで、すぐに理解できるような内容の話ではないことをくらい、僕だって知っている。
だが、外界から漂浪してきた僕が何を叫んだところで、他人を納得させるだけの根拠を示すことも出来ない。
この街の人間にとって、世界に果てがあるのは当然の事実。所詮真実なんてその程度のもの。だったら、受け入れてしまったほうが早い。

「じゃあ、君はどんな場所から来たの？」彼女はふと思いついたように訊ねる。
その問いに僕は何も答えず、目の前の水平線を眺めていた。

僕が知っている真実。
世界は、既に終わっている。
昨今の戦争は、全てを焼き尽くした。
構築された文明を、跡形もなく崩壊させた。
一度狂いだした歯車は、元に戻ることなく、全てを狂わせていく。

何もかもが失われた場所から、僕は小さな船を使って逃げ出した。
その場所から逃げ出したかっただけだ。行く当てもない片道切符。

そして、僕はこの街にたどり着いた。
ただそれだけの話。

「どこも似たようなものさ」僕は嘘をついた。
「そう」ライカは頷く。彼女だって、僕の嘘に気がついているのかもしれない。

目の前の海は、外側の惨状を伝えることなく、ただ穏やかに蒼く染まっている。
それはこの街と外を繋ぐ唯一の媒介であると同時に、この街を隔離するための障壁だ。

中に居る僕たちには、外の様子は分からない。
もしかしたら、世界はもう一度始まっているのかもしれない。
散り散りになった人々は、また文明を構築し始めたかもしれない。

けれどもう、僕にはそれを知る術はない。
それどころか僕は、この場所が本当に存在しているのかも分からない。
或いは、全て僕の作り出した幻想なのかもしれない。

それでも、いいと思う。
僕は、ここに居る。
それが真実であり、全てなのだから。

「ねえ、世界の果てって、どんな場所だと思う？」ライカは再度、僕に訊ねる。
彼女だって、真実を知りたいわけではないのだろう。それはすなわち、僕に理解を求めているだけ。世界の真実ではなく、彼女の真実を、僕に訊ねているだけ。

「・・・少なくとも、こんな楽園じゃないだろうね」僕は答えた。
いつもと違う僕の答えに、ライカは眼を丸くして、そしてにっこり笑う。
「そうだね」彼女は頷いた。

そうだね。
世界の果てなんて、ろくな場所じゃないに決まってる。
彼女にとって、ここは世界の中心だから。

見渡す限り広がる海は、何も変わらず漂い続けている。
僕らの居る『世界の果て』を、ただ漂わせ続けている。

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
茜 8/20 18:31	彼女にとってここが世界の中心。ここが楽園。外の世界なんてどうでもいいのだから、戦争の話なんて聞かせてくれなくてよかったのに。
さむらす 8/20 21:59	おもしろいです。ぼくはこの作品がすきです。 かなしく美しくない僕の世界と対比で、美しい彼女の島があるのだろうから、戦争の話はいると思う。 たまたま漂流して楽園に着いたみたいな話にしちゃやすっぽすぎるんじゃないかな。
Begonian 8/21 0:40	戦争の行はあった方がいいに一票。 でも、もっと表現をばかした方が好きかも。 全体的にはメルヘンチックだから、そこだけ浮いてる気がした。
で〜もん 8/21 16:22	世界観が綺麗に見えてるいい作品だったと思います。海の果てしなさがよく伝わってきてます。 上に同じく、戦争の話はあった方がいいに一票。でも、その語り口だけ堅苦しいのは△。
朱雀 8/21 21:47	外側の影響を受けることなく、平和なときを刻む島。そんな中で、外側の真実を知っていて、島の人たちとは違う、少し浮いた存在の僕。 語り人は僕なのだから、戦争の話はあってよかったと思います。語り口が堅くなっているのもむしろ島との差を強調していいのではと感じました。 私はこの作品の世界観と雰囲気、好きですよ。長編にしても、面白そうですね。 特に気になる点は、見つかりませんでした。 私の言葉がこれからの作品作りに参考になれば幸いです。

あざらし 8/22 11:16	ライカ、という固有名詞を出すならば、もう少し彼女に対するキャラの厚みがほしいと思いました。
あそびにん LV.2 1 8/22 18:32	戦争の話は、僕にとっての世界（戦争で崩壊）と世界の果て（ここ）との対比として必要だと思う。その上で、ライカと僕との世界の果ての認識差が面白い。 あとは、もっと葛藤みたいなものがあっていいと思う。最初と最後の同じ質問への違う答え、その過程が抜け落ちている気がする。最初の答えが「いつものように」である以上、そこに何かがあったはずだから。 漂流してから随分経っているようだから、まさか今更質問の意図に気づいたとかじゃないと思うけど……どうなんだろう？ 互いに海をぼんやり眺めながらの寂寥感を感じるような会話から、最後にほんわかした結論でしめる雰囲気は好き。 それにしても、未だに僕の認識ではここが『世界の果て』だなんて、結構冷めた奴だなとか。
さむらす 8/22 22:49	いろいろと振り返ってみたら、ふといつもとちがう返事をしたくなってみたってことでしょ？そういうことってあるんじゃないかな？ ライカについての描写いらないと思う。彼女は楽園の住民で、主人公の悲しみをやわらげてくれる。それで十分じゃないかな？
茜 8/22 23:5	あたし、もしかしたらこの物語の趣旨を勘違いしていたのかもしれない。 朱雀さんの言うように、「外側の影響を受けることなく、平和なときを刻む島。そんな中で、外側の真実を知っていて、島の人たちとは違う、少し浮いた存在の僕。」という対比だとすれば、不必要なのはむしろライカの「そうだね」という言葉のように感じる。 ライカは島の人なのだから、そとの惨劇なんて知らないのだし、無邪気に外の世界にあこがれて（でも外には行かないで）いればいいんじゃないかしら？ 外の惨劇をまるで悟っているみたいなあの発言は、対比にはなってない気がする。 最初は、外の世界がどんな楽園であったとしても、ライカにとっての楽園はここで、かたくなに外界を拒否する物語だと感じたけれど、でもそうでもないみたいだし、だったらやっぱり戦争の話はしなきゃいけなかったのかも。浮いてるのはどうにかしなきゃけど。
結政 8/23 0:5	戦争の話は必須だと思います。 対比構造があるので。 私は、楽園に流れ着いてしまった僕が感じている罪の意識のようなものも読み取れたのですがそれは深読みでしょうか。
colt 8/23 1:13	雰囲気・設定・構成・文章、全て高いレベルにあると思いますが、なぜだかあまり好きにはなれませんでした。くっきり浮いている部分はないけれど、わずかなズレが大きな溝を生んでいるような。ここまでのコメントにおける解釈の差にも、それは表れてませんか。 僕は、一度、主人公が厭世的で、この街を客観的に眺めている（少し見下してる？）印象を持ってしまったために、『それでも、いいと思う。』以下の三行、おそらくこの物語の肝であるだろう部分を、投げやりな言葉のように受け取ってしまいました。 些細な言葉でも、積み重なれば、全体の印象を変えてしまうことがあります。一行目単体では「見下し」感は僅かですが、十五行目『この街の人間にとって、～』、ラスト四行目『彼女にとって、～』と文章が重なることによって、その主人公の「見下し」感と冷め切った目線の印象を強く感じるようになりました。これはあるいは「結政」さんが仰るような、主人公の罪の意識に基づくものなのかもしれませんが、もしも読者にその解釈をさせたいのならば、説明不足の感が拭えないかな、とそう思います。
ばっは 8/23 3:29	キノの旅のような印象の文章でなかなか。でも、会話に出てくる人間は人にしたほうがしっくりと

あそびにん LV.2 1 8/23 16:0	>茜さん あ、なるほど。茜さんがもともととしていた解釈なんとなく分かった気がする。 ライカを中心として考えると、ライカはきっと僕に恋愛感情なりを持っていて、外の世界のことをいつもはぐらかす僕がいつかここから出て行くんじゃないかと不安だった。 で、最後にここの方がいいみたいな発言を聞くことが出来て、出て行かないんだと安心して「そうだね」みたいな感じだったのかな。すごい大雑把だけど。 だとすると、確かに戦争の話はいらないのかもしれない。 ただやっぱりこの話の中心は僕にあると思うし、僕の心境を語るには必要だったんじゃないかなと。ライカの立ち位置が島の人代表なのか、独立して「ライカ」なのかによって「そうだね」の扱いが変わると思う。独立してでいいんじゃないのかな？島の人代表としてどうこうっていうの無かったわけだし。 あそびにんとしては、coltさんの言うように終わった世界を経験したせいでの厭世観みたいなものを書いているんじゃないのかなと思う。終わった世界であっても、やはり僕の中では世界の中心であり、ここは『世界の果て』。見下しは多分あったんだと思う。 で、何らかの心境の変化があって、ここを（あるいはライカを）認め始めたのが最後の回答の変化につながるんだと思った。 それだけに、やっぱり最後も『世界の果て』なのかよとか。 完全に僕が認めるにはまだまだ通そう。 >coltさん 罪の意識はあまり感じなかったかなあ。あそびにんとしては厭世的で同意。 それでも、の段が心境の変化なんだろうけど、いささか性急な感はある。やっぱりもう少しそこまでの過程が欲しかった気がするかな。 ……気づいたら、ものすごく長文になってしまった。読みづらくてすいません。
茜 8/23 23:21	>あそびにんさん。 …………あー、そういう解釈もあるのか。 いえ、あたしとしては、ライカを「外には何かがあるのかもしれないのに外に出て行くことを望まない人間」として描こうとしていたのかな、と思っていたのですが。 だから、外に何があってもどーだっていいんじゃないかな。と。 「そうだね。世界の果てなんて～」の部分だけ印象が強くてこんな解釈になっちゃったみたい。 そうじゃないと思って何度か読み返しているのだけれど、どうにもあたしにはこの物語の焦点みたいなものが見えない。
ふじさき 8/24 1:6	言葉の使い方にセンスがあって読みやすいです。 独特の世界観も好感が持てました。
木星/dx 8/24 5:41	合格……ではあるのですが、捕獲できないというか、捕まえようとするとうナギのようにつるつと逃げる、そんな作品。そこんとこ、長所ととるべきか短所ととるべきか、これまた判断しづらく。安全地帯まったり感や春樹っぽくもあり、全体にサブカルエッセンスっぽくもあり。漂う情景。
あそびにん LV.2 1 8/24 10:38	きっといろんな解釈が出来るのが良さなんだろうね！ といいつつも、解釈の議論を続けてみる人。 >茜さん 当たったと思ったけど……外したかorz ライカ中心ってのはあってるけど、僕との関係とは無関係に、単純に外がどうだろうと別に行きたくはない人、みたいな感じかな？ 「そうだね。世界の果てなんて～」は僕の主観であり、彼女にとっての世界の果てが実は終わった世界である、と僕が知っていることによって余計に「ろくな場所じゃないに決まっている」が重くなってくるんだと思うな。さすがに、ライカが全く外を気にしていないかと言ったらそれは違うと思うし。

mendel 8/24 23:56	すごく気に入った作品です。読み終わった時には、「こういう意味なんだろうなあ」と自分の理解をしましたが、皆さんのコメントをみると、「あ、この解釈も良いな」とか「こういう風にも読める！」と様々な思いが生まれました。 個人的見解としては、漂流した街は自然と人が共存出来ている文明として、近代文明（戦争を起こした文明）との対比な存在。 そして恐らく、ライカは主人公が『世界の果て』から来たのだと思っているから、最後の対話の「こんな楽園じゃないだろうね」に対し表面上は「世界の果てがどんな所であれ、今のこの街での生活が幸せなんだから、いいじゃないか」と受け取り、その裏に「きっと主人公は『世界の果て』で辛い経験をしたに違いない」と察して、「そうだね」と一言。余計なことは言わず、全てを受け止める包容力を見せたのだと読みました。 ……って書いてて深読みしすぎじゃないかと自問自答。
弟子 8/26 2:25	おかしい話だよね、世界に中心も果てもないのに 「果て」があるためには「中心」が存在しなきゃいけないのに どっちかしかないなんて、おかしいよね

[TOPへ](#)

今週のお題

開催中： 嘘

投稿受付中： インターネット

Column Land

■嘘です！

■海の結果は「アーカイブ」からどうぞ。栄光の初回首位はっ？

コンテスト会

コラム掲載ペ

コラムアーカ

プロフィール

自己プロフィ

BBS

まじょコメン

海の窓

合計ポイント：15 Point

作者：He

作者コメントはありません。

どこまでも真っ白な部屋の中にぽつんと一人、そこだけ絵の具を落としてしまったかのように、少女が座っていた。ただ一色に染め上げられた部屋はどこか希薄で、部屋の広さも、彩りを与えるであろう調度品も、生活に使うものでさえも、触れなければその存在を認識できなかった。

白いカーテンを開ける。そこには海を映し出したような景色が見えた。白が支配続ける世界にいつからか忽然と現われていたその『海』に少女は目を向ける。

そして、少女はかつてこの部屋を共にしていた少年のことを思い出す。少年は突如として現われた広大な『海』に心惹かれ、真っ先に飛び出していった。

「外を見てみたい」

そう言った少年に対して、少女は未知の世界に飛び出すことに恐れを感じていた。

「私はここで待ってるよ。」

少女はそこに留まることを決めた。

『海』では、太陽が巡り、波が押し寄せ、少女の世界に変化を生み出し続けていた。そこに怖れの念を抱くこともあった。夜の海は格別に恐ろしく思っていた。世界を切り取っていくかのような漆黒の波が押し寄せる。自分の存在を飲み込まれてしまうような気がして、カーテンを閉めた。変化をすることの無い白い部屋だけが残される。そうすれば、時間の流れから、一人の寂しい時間から逃げられる気がした。

少女はあのとき一緒についていけばよかったかもしれないと思い始めた。時間が希薄な部屋の中で生活し続ける少女には、あれからどれくらいの時間がたっているかなどまるでわからなかった。

そんな時間がしばらく続く中、少年が帰ってきた。

「外には変わったものがいっぱいあったんだ。一緒に行かないか？」

少女は少年の帰りを喜び、もう独りになるのは嫌だとの思いもあったが、いざとなると踏み出せなかった。だから、代わりに呟く。

「もし、私がここにいたいと言ったら…。また一人で出て行くの？」

「だったらオレもここに残るよ。確かに外は魅力的だったけど、一人じゃ、つまらない。」

答えは決まっていたと言うように、返事は早かった。少女は、自分がどんな選択をしても少年はそれにつきあってくれると思うことができた。

だから、結論を出すのも少しだけ気楽になれた。

「じゃあ、…。」

作品に対するコメントを下さい。

投稿者	コメント
RiZEL 8/20 11:21	凄く好きです。 雰囲気も言葉の使い方も秀逸。 作品の透明感が素敵でした。
鞆鞆 8/20 15:59	雰囲気の作り方が上手だと思います。素敵。 最後の少女の選択を明示しなかったのも好感が持てます。 ちなみに、私なら留まる方を選ぶと思います。話の持って行き方からすると、外に出る方が頷けるとは思いますけれど。
茜 8/20 19:21	最終的に少し論点が崩れてる気がする。 変化が嫌だって言ったのに、最後は独りが嫌だって言ってる。 心境の変化？ でも、貴女、変化を拒んだんじゃないの？ >選択 あたしだったら、留まると思う。 彼女は、外に出たかもしれないけれど。
あそびにん LV.2 1 8/20 21:34	個人的には調度品は無い方がイメージに合うかも。なんというか透明というか、抽象的というか、ほわほわした感じの世界。形成された脳内劇場がとってもきれい。 一つ思ったのが……これ海である必要が微妙な気も。変化の象徴として波を使いたかったってことなのかな。空で雲の動きとかでも立派に成立する気も。これを言い出したらいろんな作品が始まらないのかもしれないけど。 >選択 話の持っていく方からすると、むしろ少女は留まることを選択する気が。 出て行く：変化に対する抵抗感 留まる　：また一人になってしまうことへの抵抗感 なら、つきあってくれることで気楽になれるのは留まる選択しかないと推測する理系なあそびにん。 あそびにん的には刺激万歳だから外に出るっていいたいけど、それってそもそも少年と最初から飛び出してるから前提がおかしいわけで。……自分ならどうするって議論は最初に飛び出さなかった前提がある以上意味がない？
こえい 8/21 11:46	今四本目読んだことになるんですけど、 今のところ一番文章読んでる気になれた作品でした。
結政 8/22 23:35	最後の答えが無いというのがすごくいいですね。 雰囲気作りに必要な描写がうまかったと思います。 何かの比喻なのかとも考えてみたのですが 思いつきませんでした・・・。
カケラ 8/23 1:25	雰囲気は好きですが違和感が残りました。 20行目　少女はあのとき… 25行目　少女は少年の帰りを… の二箇所の記事が他の部分と違う気がします。 あるいは心情変化が急すぎるのかも。 海は空と違い旅に出やすく、陸と違い常に変化がある。 海の色と白は相性がいい。 という理由から、海である必要はあると思います。
ばっは 8/23 3:17	いい作品なだけになんかもったいない。 イメージした人物像との間にギャップがあるのか、会話文がかみ合わない。 ラストは悲劇でいいじゃないか

Eisen 8/24 8:51	最後の言葉を隠してフェードアウトしてしまったのは、雰囲気づくりか何か、そういった意図があったのでしょうか。どうやら逆効果だったようです。 このあとになにか情景描写を入れるとか、この手前で止めるとか、そういうことをした方が良かったかも知れません。 全体として象徴的で幻想的な、それでいて優しげな、そんな空気が心地いいです。 ただ……外の世界が「海」であることの必要性が、どこかで感じられるとなお良いと思いました。
pencha 8/24 9:10	文章全体から伝わる雰囲気の良さが印象的でした。 白という色を基調にしているところがその雰囲気を導いてくれたんじゃないかと思いました。
木星/dx 8/26 1:34	象徴的な設定はよかった。 ただ、登場人物が弱いというか、魅力に欠けるとするか、設定に吞まれて置物みたいになっているというか、そんな感じ。
弟子 8/26 3:23	白い色に囲まれるなんて、気が狂いそうだ。
赤ずきん 8/27 1:36	何もない部屋を白、変化をする海の波を黒って表現しているところがうまいです。 なんだか少年のキャラが薄い気が。
にび 8/27 5:11	今回の作品をいくつか見た中では一番完成しているように感じました。呼んでいて心地よかったです。 外の世界を『海』であるとしながらも、その陰と陽の表情を上手く描いているので海のほかの物の広がりも感じさせている感じで良買ったと思います。台詞選びも心情をうまく描写できるように上手く選んでると思うし。

[TOPへ](#)

言われていることと、現実に関わりそうなこと

合計ポイント：14 Point

作者：結政

作者コメントはありません。

本題に入る前に、間違い探しをしよう。
下にした文章の誤りを見つけて欲しい。

地球温暖化、地球温暖化と世間では言われている。
温暖化により、北極の水が解けて、海面上昇。
島国の一部は消滅し、多くの人が住みかをなくすなど
大変なことが起こるといわれている。

さて、どこだろうか。
正解は、「北極の水が解けて」という部分。
北極の水は海に浮かんでいる。
水の上にある水が解けても海面は上昇するはずはない。

……しかし、温暖化で南極の水が解けても海面は上昇しないということはお存知だろうか？
意外だが、海面は下がる。理由は簡単。

氷ができる時には、周りに暖かいものがある方がしやすい。
現在の南極の気温から考えれば、
数度上がった程度ではマイナスの範囲を超えない。
つまり、氷ができる環境で、周りの海が暖かくなると
南極には氷ができやすくなる……というわけ。

これは、IPCCという国際学会で提唱された理論で、多くの学者も認めている。
海の方があたたかくなると南極の水が大きくなる。ということだ。

それでは、なぜ地球温暖化で海面が上昇するのだろう。
これも原因は超単純なこと。
水は温かくなると、膨らむから。

もちろん大陸も膨らむ。が、水の方がもっと膨らむ。
固体よりも液体の方が膨張率は高くなるからだ。
陸を上回る率で大きくなった水が
海岸線を侵食していくのではないかとされている。

温暖化では海面が上昇するだけではない。
温暖化によって、海が”止まってしまう”とも考えられている。

海は、浅い部分と深い底の部分とで水の性質が異なる。

具体的には、温度や塩分濃度などが違うのだが

これらは不思議なことに混じり合わない。

そして、浅い部分と深い部分でそれぞれの海流を持っている。

それらの海流は別々に、それこそ、道路の下を地下鉄が走っているように

独立して動いているが、それらがつながっている場所もある。

そこで海流がつながっていて、海はこの海流に乗り地球を周るのだ。

現在、この海流が温暖化で止まってしまうと考えられている。

この海流が深い部分に沈み込むとき、それは塩分濃度が濃くなるとき。

沈み込む部分は主に大西洋の北部。この地域で冷やされた海水の濃度は濃くなり、

次第に深く沈み、深層の海流に乗る。

ただ、地球温暖化が起これると、塩分濃度が濃くなりにくくなる。

氷が解けた真水が流入することも原因となるし、そもそも、冷えにくくなるからだ。

このため、大きな流れが止まってしまう。

この海の流れは思っている以上に非常に重要だ。

地球を走り回っている水は、北に熱を運んでいる。

この熱の流れが止まると、極地では熱の供給が少なくなり、

氷が多くできるようになってしまう。

氷は光を反射するため、さらに受け取る熱が減少し、

ますます冷えてしまう。

温暖化で冷えるのはいいと思うだろうか？

これは、一気に氷河時代に突入する可能性もある大問題なのだ。

他にもこの海流は、深層の豊富な栄養を

浅い部分に運ぶという役割も持っている。

この栄養の補給が止まってしまうと、

ほとんどの漁場が消滅するとも言われている。

食べ物の話題だと結構身近に深刻さを感じないだろうか？

こうなると、食べ物以前に、海洋生物がほとんど生きられなくなっているのだが。

地球温暖化→南極の氷が解けて海面上昇→大変なことに！

という一本調子の理解はそろそろやめにしよう。

本当に何が起これると考えられているのかを捉えないと

物事は真に受け取れなくなってしまう。

なんとなく、では済まされない温暖化の問題。

そこから見える、海の偉大さをあらためて感じて

そして、なんとかとめなくちゃ、と考えて欲しい。

海面上昇で陸が少し無くなることよりも、

もっと深刻な問題を海は引き起こすのだから。

投稿者	コメント
結政 8/20 13:18	常識だと思っていたことが覆されるというのが良さでしょうか。 東工大生に真っ向から理系トークとはすごいと思いました。
茜 8/20 18:29	冷やされると塩分濃度が高くなるの？水の密度が高くなるのではなく？ どうせ二酸化炭素削減と省エネを呼びかけるスローガンなのだから、単純でよいと思いま すけれど。でも、お話は興味深かった。
木星/dx 8/20 20:43	特にキラリと光るような工夫無く、知ったことをつらつらと述べている文章。ためにはな るかも知れないけれど、これといった感慨はわいてこない。ナルホドネ、と思うくらい で。その点、自力で調べた場合と大差なし。折角コラムにするんだから、もっと面白く読 ませて欲しい。
八剣 8/20 21:22	確かに北極の氷は溶けても海面は上昇しない。 だけど。 北極の氷が溶けるという事は北極圏の氷が溶けるということ。そのくらいの想像もつかん のかボケ、 と怒られたのは小学生くらいのころだったかな。
Asagi 8/21 2:53	一般的に言われていることを、そうじゃないんだよと覆してみせるコラム、なるほどで す。 ただ、最初の部分はもっと軽くていいでしょうね。 導入としてはありだけど、きっともうどこかで聞いている話ですから。 八剣さんみたいなツッコミもありますし、そこから先の話のインパクトが薄れちゃった気 が。
zoo 8/21 23:30	今回読んだ正統派の中では一番好きだった。 でも、よくわからないというか、しっくりしない点もいくつかあって・・・自分の頭の問 題ではあるんですけど 一つ一つの段落でまとまっていたところはよかった。
あざらし 8/22 11:24	南極のことを中心に話が展開されているだけに、最初の北極は別にいらないのではない と思えてきます。話としては好きです。
jabberwock 8/22 12:17	作品の感想としては、個々の話題は面白くてためになるけれど、全体のまとまりがないの で結論や言いたいことが伝わりにくくなっているという印象でした。 以下に細かいところで気になったことを3つ。 >……しかし、温暖化で南極の氷が解けても海面は上昇しないということをご存知だろう か？ 1つ目。この文章は次に来てる段と矛盾してるのではないかと思います。正しくは「温暖 化になっても南極の氷は解けず、むしろ増える」ではないでしょうか？ >この海流が深い部分に沈み込むとき、それは塩分濃度が濃くなるとき。 >沈み込む部分は主に大西洋の北部。この地域で冷やされた海水の濃度は濃くなり、 >次第に深く沈み、深層の海流に乗る。 2つ目。ここは海流が沈む、塩分濃度が濃くなる、海水が冷やされる、海水の濃度が濃く なる、の4つの現象がそれぞれどういう関係や仕組みで起こるのか説明不足でわかりにく かったです。あと海水の濃度の意味がよくわかりませんでした。 >海面上昇で陸が少し無くなることよりも、 >もっと深刻な問題を海は引き起こすのだから。 3つ目。海面上昇が海流の変化の問題よりも深刻でないということの根拠が書かれていな い。そもそも、 >温暖化では海面が上昇するだけではない。 >温暖化によって、海が”止まってしまう”とも考えられている。 ここでは海面上昇と海流の変化の問題が並列に扱われていたので結論を読んだときに違和 感を感じました。

あそびにん LV.2 1 8/22 14:58	読んでの結論としては、結局海面上昇して大変なことに！って結論になるのなら別に勘違いしたままでも問題ないんじゃないかとか文系なら思ってしまうんじゃないかなとか。 (偏見) 理系的には正しい原因を知るのは楽しいんだけどね。 冷えたら濃度が濃くなる原因も良くわからないけど、それよりふと思ったのは、南極の氷が大きくなる→真水が減る→濃度が濃くなる→海流がおかしなことにみたいな感じにもなるのかな？完全に個人的な興味だけど。
イッパイアッテナ 8/22 21:33	ふと、すごい疑問に思ったんだけど、南極の氷って海の水が固まってできるんじゃないくて、空から降ってくる雪が堆積してできるもんじゃないの？ だから、氷ができやすくなる環境って、関係ない気がする。(溶けやすさと温かさは比例してなかったはずだし。) とりあえず、温暖化問題は、プロの意見も相当眉つばが多いんで、難しい話だと思うよ。(アメリカの科学者とか、意図的としか思えないような嘘を流すしね。)
きしと 8/22 21:49	温暖化、温暖化と言っているけど、本質的なことを理解してないのだなあと感じさせられました。 こういう正統派コラムはとても好きです。
jabberwock 8/23 11:52	>>イッパイアッテナ 地球が温暖化すると南極大陸の周りの気温と海水温が上がり、空気中の水蒸気が増えるのでそれが南極大陸に雪や氷となって降り積もるという理屈だと思います。参考文献『環境問題はなぜウソがまかり通るのか』
vicky 8/23 13:11	ここは言葉遊びをする場ではなく曲がりなりにも「コラム」と名乗っている場である以上、これは立派なコラムでしょう。ただ、「海面上昇」は事実です 現実にはツバルという国がなくなりかけていることに関して、東工大の最新研究ではどう分析し、対策案をお考えなのでしょうか？ 古い考え方かもしれませんが、高等教育を受けたものには、それを社会に還元する倫理的な意味での義務があると私は考えます。大学には国から補助金が私立にも独立行政法人にも出ているはずですよ。 今のところは「環境先進国」として、またODA加盟国として、日本の（使いたくない言葉ですが）エリートは何がしかの対策を示し、それを具現化する義務（これはODA加盟国としての）を負っていると思います。何が原因かわからないなら対症療法を打ち出してください。
イッパイアッテナ 8/23 17:57	>jabberwockさん そういうことね。アイシー >vickyさん それは、アイランドで言う台詞ではなく、教授に直接メールで聞くべきことだろ(苦笑 まあ、自分のいる機械系の学科では、温暖化の講義もあったし、教授の余談でも環境問題はよく扱っているよ。あと、企業の人たちの話聞いても、一に二に環境を念頭に入れた話が多いね。 なんで、高等教育を受けたものをつくる立場の人は、環境問題に対してまじめに取り組み、また少しでも対策を打ち出しているよ。 まあ、ペニシリン級の劇的な特効薬はまだ無理みたいだけど。 せっかくなんで温暖化対策の京都議定書関連で余談を。 日本はハード面は企業の努力で京都議定書以前からすでに温暖化対策はできているんで、あとはソフト面(ようは人)しか改良する余地がないんだよね。西欧とかは当時はハードが未熟だったからハードの改良で議定書達成できるんだけど。 なんで、日本だけに限定すれば、一部の頭のいい人たちよりも、大多数の人たちの意識改革がなければ、温暖化対策というか京都議定書対策はできないんだよね。 ようは、クーラーじゃなくて扇風機使え。とかそういう次元の話。 んで、うちら高等教育(でいいのかな?) 受けた人は、特効薬作るよりも、そういう人たちの賛同を得るために、わかりやすく現状を説明しなきゃいけないんだよね。 というわけで、コラムというものが大事なわけですよ。 誰しものが、コラムを書けるようになるのが、温暖化対策の一つだというのが、自分なりの答えだね。←超強引

作者 8/23 23:37	>vickyさん 海面上昇についてですが >それでは、なぜ地球温暖化で海面が上昇するのだろう。 >これも原因は超単純なこと。 >水は温かくなると、膨らむから。 > >もちろん大陸も膨らむ。が、水の方がもっと膨らむ。 >固体よりも液体の方が膨張率は高くなるからだ。 >陸を上回る率で大きくなった水が >海岸線を侵食していくのではないかとされている。 と明記しています。 海面上昇が起きないと言っているのではなく 南極の水が解けても海面上昇は起きないと言っているのです。 あと、ツバルですが おそらく、近いうちに消滅すると思われます。 既に、島の定義からはずれてしまった居住区域が多くあり (満潮時に水没している部分) また、その面積が年々増大していることは事実です。 温暖化が面倒なのは、フロン層のオゾン層の破壊と同じで 今止めても、その効果はすぐに止まらないということです。 なので、効果が見えません。 それで余計に、温暖化対策は進まないのです。 (幸いなことにオゾン層の破壊は徐々に減少傾向らしいですが) 海面上昇を押さえる手はありませんし 今後確実に海面は上昇し、陸地が減少するでしょう。 対処療法は、今すぐにでも二酸化炭素を含む 温室効果ガスの排出を少しでも少なくすることしか方法はないと思っています。 個人的に一番の策は、 すべての発電所を原子力に変えちゃうことです。 これは、大変にすごい効果を上げるはずなんです 反発もあるでしょうし、なかなか難しいです。 なお、イッパイアッテナさんのおっしゃるように 現代の日本では、他国と比べ物にならないほど 温暖化対策が進んで居るというのが実情です。 (オイルショックの流れを汲むエネルギー対策の賜物です)
ふじさき 8/24 0:57	まさにコラム、と言ったような文章でした。 正しいかどうかはおいておいて、議論されるだけでもこの文章の意義はあると思います！
ピロ 8/24 1:58	正統派コラムですね。 読んでいて「へえ～」と思うところがたくさんありました。
vicky 8/24 4:42	きちんと読んでいなかったのがばれちゃったですね。作者さん、申し訳ありません。 ただ「すべての発電所を原子力に変えちゃうことです」が引っかかります。この問題についても作者さんは認識していらっしゃるようですが、地震大国かつ建前大国の日本では原子力に頼りきることは、国際政治的にも、環境問題の視点からも「一番の策」というのは疑問です。対案を出せといわれると、そこにも問題があるのですが。
pencha 8/24 9:21	最初の部分を読むと、その後も続けてスイスイ読みたくなりました。 ...地球「寒冷」化でしたっけ？研究者によっては温暖化より深刻だと捉えている問題。。
忠犬ヤス公 8/25 10:2	こういう正統派コラム大好きです。自分の常識を覆された瞬間、他者の別の考え方に触れることができた瞬間、大げさかもしれませんが、なんかひとまわり成長できたと思えます。

やまのかめさん 8/25 11:18	読み手によってだいぶ見方が変わるコラムではないかと思いました。冒頭の掴みの部分にあたる北極の氷のくだりなど、理科を注意深く勉強してきた人にとってはすぐ気付くことですし、ましてや多少なりとも温暖化について調べたことのある人にとっては当たり前すぎて、コラムの第一印象が台無しになってしまいかねないのではないか、でも例えば小学生～中学生を対象にとか、あまり問題に深く触れていない人たちへの啓発ということなら、まあ良いのではないか、そんな感想を持ちました。 加えて言えば、中盤以降で実はこうなんですよと進んでいく話も、実のところモデルとしては妥当性のあるモデルとして受け入れられていても、実際にそれがどれだけ大きな効果を及ぼすかについては、自然界における要素の相関が複雑すぎて、とても断言できる段階ではないはずです。ですから個人的には、冷静に眺めると、どうも大げさに書き立てられている印象も持っていました。「一本調子の理解はそろそろやめにしよう」には大賛成ではあるのですが。もっとも、啓発という目的で書かれたのであれば、やっぱり多少は大げさな位でいいのかもしれませんけどね。
ルンタッタ～ 8/25 19:8	なるほど～、これぞコラムですね！
kiku 8/25 21:52	内容自体も「へえ」と言わせるものだったし（もちろんコレを鵜呑みにするの過ちの繰り返しだけど）、意識喚起としていいコラムだと思う。
弟子 8/26 2:33	温暖化が進むと、つつじの花も咲きにくくなるのかな？ よくわかんないや
橘 8/26 23:55	東工大らしいですね(笑) 正しい知識を持っていないがために、マスコミのいい加減な報道や過剰報道に流されることもある、そんなことも伝えたいことのひとつでしょうか？ あっ、と気付かされました(^ ^*) ただ、海流のところがちょっと専門的ですね。 文系の人や一般の方の中には分らない方もいるかもしれません(・・;) 図をつけることができれば解消できる問題ですけど、 もう少し簡潔にしてもよかったかな？って思いました。

「海」まじょコメント

はじまりました！ お題は「海」。

ざっぱーん。威勢良く、44 作品という大波をかぶっての島開きとなりました。作者さんたち、ありがとう。

そして、コメント戦も賑わい、全作品コメントを敢行した熱心なコメンターのかたがたを何人もお迎えすることができました。おつかれさま。

——という状況ですので、講義版のように、ただ全作品にコメントを付けるだけでは、まじょコメントの独自性が主張できない！ どうしょ。

そこで、私なりの基準を設けて、全作品をいくつかのグループにまとめつつコメントしてゆこうと思います。個々の作品の多彩さに埋没せず、少し距離を置き、補助線を引きつつグルーピングしてゆくことで、見えてくるものもあるかな、あってほしいな、との願いのもとに。

ああ、そういう整理のしかたもあるんかとか、あの作品とオレの作品の距離は、こういう視点で見ると意外と近いんだ、いや、これをそこに置くのはムチャでしょ、などなど今後の作品構想、作品評価につなげていただければ幸いです。

こういうのは蛮勇が肝腎。

44 作品、まずはお題の扱いかたを基準に 2 つのグループにばっさり分けます。

パート 1：海を「場」として用いた作品 計 22

パート 2：海の「機能」を用いた作品 計 22

おお、きれいに 22 作品ずつに分かれた！（←気分はモーゼ♪）

で、そのなかをさらに 3 つに分けます。

目次は下記。

パート 1：海を「場」として用いた作品

1. 夏だ海だ恋だ！
2. 警部、事件です
3. もののおもう

パート 2：海の「機能」を用いた作品

1. 隔てる
2. 大きい
3. ことば

御自身の、あるいは御最良のあの作品はどのジャンルに？
とても長いので、ほどほどに飛ばし読みにてどうぞ。

パート1：海を「場」として用いた作品

海という「場」で、つまり海を舞台に、構成されている作品たち。

1. 夏だ海だ恋だ！

まずは、いちばんたいせつな(?)恋のお話。やはりみなさまの関心は高く、計7作品がエントリー。甘いのはデザートに取っておいて、抑制の効いたものから順にまいりましょうか。

lonely blue

ボルツマン定数の前半と鎌倉駅の後半の対比を気持ちの変化にシンクロさせた構成が鮮やかで、かつ「胸の中の怪獣は足の裏から逃げてしまった」といった個性的な表現が魅力的。

字数論議に引き寄せて言えば、676字と規定文字数の半分にも満たないのに、これだけのイメージ喚起ができるのだと感嘆しました。ひとつひとつの言葉が、丹念に選び抜かれて、さながら貝殻ネックレス。

ただ、白い夏帽子、白いスカート、熱気と潮風……とていねいに夏の海を引き寄せたのに、ラスト1行「青く色付く」とまとめてしまったのが惜しい感。「青く」というより、輝き、まぶしさのような「光」系統の言葉が似合いそうです。

恋愛未満、この夏いいことありますように、と読者の共感を誘う佳品でした。

水溜りのある日

恋愛は芽生えたよ。でも、ちょっとさびしい三角関係なんだ――。

そんな水溜り君の登場です。ふと口走ってしまった卑下の言葉の「水溜り」を「海へ帰るもの」と逆転させて自らを励ます言葉に変えたラストが爽やか。ここをリクツっぽくなく、もっとさらりと展開できれば、より良かったか。

ときに、おんなごころは敏感にして複雑。A嬢は水溜り君の思いに気づいていて、ちょっと誘ってみたんじゃないのかなあ、なんて、深読みしてみたり。

えええ……

恋愛はしたよ。でも、夢だったのさっ。

夢の中でさえ妥協して、というショボクレ感が笑いどころでしたが、容姿だけで女の子を描写してしまうと、どうしても読み手の反発を招いてしまいます。「俺」に感情移入して一緒に自虐気分に浸ってもらうには、そこに工夫が必要だったか。

豚

こんどこそ本物の恋へ！

お約束の夕日の海を見ながら、しっかり告白しました。

「愛してる」……「アリガトシ」。うーん、この落差、だいじょうぶなんだろうか。麻衣ちゃんの気持ちは「俺」の上にはないような予感がひしひしと(心配症)。で、「トン」だから「豚」？

ということで、この作品はラブコメでなく、さいごまで勘違いで突っ走る「俺」の悲劇が主題と見た！

裏切りもまた一興

いよいよ正真正銘の熱い恋……！

しかし、友達を踏み台に楽しむってどうなんでしょ。やっぱり読者さんを敵に回してしまふのでは……と思っていたら、コメント陣は「もっとケースケをいぢめろ！」ですか。いやはや、恋愛に仁義なし。

ときに「おーい」が彼女登場の第一声であることに違和感を感じたかたはいらっしゃらないのでしょうか？

あ、そうか、「ねえ彼女 振り向くあの子に 薄くひげ」(あそびにん LV.2 1作 あざらし川柳大賞応募作品より)、ふむふむ。

出会い

はい。デザートは、まくあちゃんです♪

「出会い」とタイトルにあるけど、これ、まくあちゃんがヒロインですよ。だから、お兄ちゃんが溺れた原因の「突然足を引っ張られるような感覚に襲われ」は、あくま、もとい、まくあちゃんが引っ張ったんだと推定。違うか？

まあ、この設定から永遠に逃れられそうにないお兄ちゃん、あきらめて未永くまくあち

ゃんとお幸せに。

海＝波＝ポロリ

熱く甘く、ひとめぐりしてきたところで、原点に戻りましょうか。

なぜ、人は海に行くのか？ 哲学的に問うて、その目的はポロリなり、と解く。

「偶発的でなければ意味がないものを誘発的に起こすという矛盾」といったマジメ口調はおもしろかったけれど、やや饒舌に語りすぎたか。

不出来だと言いつつ、きっちりブロンズ・メダルを獲るあたり、さすがのネタ師であります。おめでとう！

そして気づく重大事。

海という場で恋愛を語った7作品、このなかにホンモノの恋、あったっけ？

2. 警部、事件です

まくあちゃんに足を引っ張られなくても、海だから事件がイロイロ起こります。

そんな事件簿に GO! 恋を上回って、9 作品エントリーです。

海の悪魔

事件が起きた（らしい）。でも、どんな事件か、よう分からん。鬼警部ルンタッタさんの登場です。

リレー小説イベントまで巻き起こって、読者さんに支えてもらえましたね。作者さんとしては、うれしいことかなと思います。

読者参加型。そんなスタイルは、ありといえばありますが、やはり単体としての充実度ももっと欲しいのと、できれば探偵「東工大」先生は、別の名前があらまほしいです。どうしてもストーリー上、必要ならば仕方ないですが、小なりとは言え、ここは広く世界に開く島でありたいので。

漂流物

これもまだ事件の予感。乙女に迫る黒い魔手。

えーと、貝殻、野球ボール、ビー玉、ブレスレット、麦藁帽子、そしてお洋服、でコレクションはよろしいのでしょうか、お嬢様。本も含まれますでしょうか？

犬が効いてます。犬に引っ張られてという光景が、見えないリードに引っ張られて大き

な運命へと吸い寄せられてゆく無力なお嬢様を象徴しているようで。

黒幕はどなたでしょうね。伏線が全くないので、かえってドキドキします。

げいるすてっぷ！(序)

これまた犯行未遂。犬ならぬ、げいる、に引っ張られて、お空の彼方へ。

比べてみて、「漂流物」と同じ犯行未遂モノなのに、未完成感＝もどかしさをこちらのほうが強く感じるのは、バレーボール妖精げいるの突飛さ・非日常性がかえって災いして、こいつ、このあとどうなるんだろ、と読者の興味が先へ先へと引っ張られてゆくせいかな、と思います。

日常の中の恐怖を描くなら読者置き去りの未完もありだけれど、非日常を設定するなら、ちゃんと読者を日常に戻してあげなくちゃ、ということでしょうか。

シーサイド・ランデブー

ようやく(不謹慎?)事件が起こります。浮いてる彼女は、でぶでした――

足りないものは何だったのですか? 顔 OK。性格 OK。じゃあ、ボディ?

なぜ苛立つほどに、その穴を埋めたいと思ったのか、その狂い始めが描かれていると、読者も一緒に暴走できたように思います。たとえば、僕は完全無欠(と思いきやナルシスト)で、だから釣り合う彼女も完全無欠でなければ、というような。

見せ場部分、バッフンにウォーン、といった擬音が、悲劇をコミカル化してしまっていて、肉塊の重さも死臭のグロさも台無しに思えましたが、作者さんの意図やいかに。

夢を見た少年のお話

もひとり死にます、ごめんなさい。

台風とともに、秘密基地とともに、消えたエリカ、どこへ?

犯人はレイ! と鬼警部ルンタッタさんなら推理するのでしょうか。

「夢」「夢」と連呼せずに、ふわりファンタジーのように、風の妖精のように消えていったほうが、儚げでよろしかったのでは。

わたしのひとりたび。

死ぬ予定だったけど、未遂で済みました。ほっ。

おじさん応援コールが起きましたね。エロおじさんになれコールも少しかきました

ね。

長編を削ってこうなったせいなのか、おじさんの人物像のどっちつかず感とともに、「わたし」が生きるのにくたびれた理由も、少しだけほのめかしてあるのが、かえって不得要領で、1500 サイズに合わせて枝葉を落とすだけでなく、再構成する必要があったのかなと推測しています。

それにしても、「持ってきた道具一式を海に投げ捨てた。」に、海を汚すなコールが起きなかったのはなぜでしょう？

海の魔力

死んでもおかしくない状況だったけど、無事故で済みました、ほっ。

そりゃ、ムチャでしょう。3月の海で泳ぐ。

1度でたくさん、2度とはするな。

シージャック

そろそろ、死ぬのはおしまい。かわいい戦隊モノの登場です。

色鮮やかな情景でスピード感もあってよいのですが、宝島って？ と、目を覚ましてもお話がまとまらないなら、夢のまま虹の架け橋を飛翔していったほうが爽快に終わったのでは？ せっかく七色の虹戦隊なのに、色とワザの間に関連があるのが、赤だけなのももったいない。

夏の思い出

さいごは、海そのものが事件です。

夏だーっ、海だーっ、大時化だーっ、の三段活用。言葉の勢いだけで、大時化感があふれます。

コンパクトにインパクト。

……帰ろっか。

3. ものおもう

そして、人々が去り、甘い恋愛も黒い事件も遠くなり、海は思索の場に戻ります。

防波堤

まずは防波堤にて、音と香りで海を。まったりと浸っていると、「隣に、君がいてくれれば」でさくりと喪失感。目を閉じることで、次に目を開けたら時が戻ってくれていけばいいのに、という願いが形をなす。そうした心の動きが、しっかりと感じられました。

それにしてもリクツっぽいなあ、みんな。何ヶ月ぶりじゃ「変わらない」とは言えない、ですか？ 季節は移っても、風景を構成する基本要素が同じなら「変わらない」でも良いのでは。むしろ、「君」と別れて何年も経って、ぬくもりの記憶がすっかり褪せてしまっただけからよりも、数ヶ月、ようやく思い出となり始めた頃合いのほうが似合いそうな心情と読んだのですが。

広がって…

つぎは橋の上から、虹色に輝く油膜を見つめて。

排水=捨てられる、油膜=輝く、とうまく組み立てていただいたのですが、昨今の排水事情に添わない点は措くとしても、風景のひとつひとつを心情に直結させると、かえって技巧的で不自然な印象になってしまうのでは？

魚の塩焼き→海の恵み、三日月→これからふくらんでゆく、など、すべての事物に意味が託されているようで、残念ながらそこがとても息苦しく感じられます。つくりこみすぎなのでは？

独りつぶやき

より海に近く、干潟にて。海の恐さを感じつつ、水鳥が飛び立って落ち着く、という展開。

これも、風景と心情をシンクロさせようという作者さんの意図がかえって裏目に出た例と言えそうです。

かつ、フラれた油膜さんと異なり、こちらはたぶん実感ベースなのでは、と推定。それで自分の中で分かりきってしまったせいか、恐さの説明が乏しくて、読者さんへアピールできなかったのでは。

私の中に潜み、漂い、蠢く海

浜辺で静かに物思う……なんてガラじゃないのさ、と忙しく世界遍歴の旅へ。

地名の大安売り。そのチープさが、デコトラ仕様といったところでしょうか。うーむ、コメント不能です。

とりあえず、タイトルの「潜み、漂い、蠢く」という語感から程遠い本文だなあ、とだ

け。

下へ参ります♪
深海モノが2つ。

光の世界の住民たち

光は目立つためではない。「発光は"隠蔽"に用いられるのである。」という逆転の発想をきっちり説明したところが鮮やかでした。

ただ、もちろんすべて受け売り、なわけですよね？ 何だか、すべてを自分で発見して、どうだ凄いだろうと言ってるように聞こえてしまうので、出典までは書けないにしても、もう少し「伝聞形」の文体を交えるなど、科学者たちが発見してくれたアメージング・ストーリーを自分なりに再構成してお伝えしているのですよ、というスタンスを明確にしたほうが良いのでは。

物語にすらなりえない。

そして、ゆらゆらと海底へ着地。

深海の海老ワールドを人間界から見下ろして、神話的雰囲気は漂うけれど、そして神話だから、少しくらい分かりにくいほうがミステリアスでよいのかもしれないけれど、「私」にとっての「彼女」が何かすら分らないと、お手上げです。

解説をよろしゅう。

パート2：海の「機能」を用いた作品

場所としての海ではなく、海が持っているいろんな「機能」に着目し、それを骨格に構成された作品たちです。

こちらも3パターンとして析出してみました。

1. 隔てる

海の機能のひとつめは、世界と世界を隔てる機能です。7作品エントリー。

或るひとつの情景

ここは世界の果てにして、かつ中心。

その小さな平和に同化しきれない、マレビットとしての「僕」。設定はとてもシンプルで分かりやすいです。外は、もちろん戦争。

そのマレビット「僕」の心中の葛藤が、もう少し浮き彫りになると良かったのかな、と思います。元の世界への執着や未練を断ち切らせたのは、ライカの存在なのか。ならば、新しい伴侶と新しい世界をどう切り開いてゆこうとしているのか。それとも、いったん地獄を見た者として、もうそんなポジティブな意思はなく、諦念だけで漂ってゆくのか。

漂い続け、漂わせ続け、と終わってしまうと、まるでタイトルさながら、どこにでもある話とさっと流れていってしまうようで。

海の窓

同じように外なる『海』に隔てられた小さな部屋に、同じく少女と少年がひとりずつ。

ただこちらの少年は、マレビット「僕」と異なって、少女を外へと誘うのですね。結論を開くことで、読者に好きなように想像してもらおう、というのは読者にはここちよい展開だけれど、じゃあ、この作品に託されたメッセージは何なのでしょう？

海を越えて

ここでもまた、海は隔てるもの。ただ 15 時間と、果てしない広がりよりはずいぶんと短縮されて、そこをジェット機が通って、彼を連れ帰ってくれたので、より揺れるおんなごころ。

「海を越えて あなたに会いに行ける勇気が わたしにありますように」と祈りのようなフレーズはとても心に響くのですが、語られていることの時系列がよく分かりませんでした。一時帰国？

それにしても、この相似形の 3 作品。男は外、女は内、といずれも古典的パターン。入れ替えると、どうなるのかなあと試してみたり。

さて、隔てられていても、人の思いは、熱意は、それを越えてゆくわけで、その超えゆく思いにフォーカスしたものが 4 作品でした。

井の中の蛙のなんとやら

今回の最小文字数。なのにコメントは最多。という珍事を招来しました。

パレットに描くように、文字で曲線を描きたかったのかな。だからタイトルが長いのかな？ などと試してみたのですが。

船出

勇ましく。

気合い十分なところは伝わってきました。はめこまれた固有名詞も、力強さを演出するのに効果的ですが、課題はリズム、ですね。

それにしても読み手さんの協力はありがたい。用語解説はもとより、作曲までこなしてしまうのですから。

眺望

そして童謡に揺られ、ゆったりと船旅で留学先へ。

シンプルだけれど、色＝個性がなくてものたりないです。せっかくタイトルに掲げた「眺望」を、大海原の夕景の壮麗さを、もう少しあざやかに見せていただけると良かったか。

船酔い

さいごは帰り旅の心配へ。

手漕ぎボートで船酔い、って珍しいですね。その辛さをもう少し具体的に見せつつ、ホクレア・クルーの苦労につなぐと、実感と知識との間に架け橋ができて、知識披露だけに終わらない伝え方ができたのでは。

あるいは、船酔いの話はこの際、棚上げして、ホクレアを送り出したポリネシアの人々の心意気にフォーカスするとか。

直近のブログ事件に引きずられて、御自身のなかでだけ分かっていることを前提に、ロマンや感動という言葉を使ってしまったところが、伝わりにくくなっている原因では、と読みました。

2. 大きい

海は大きい。まさに地球サイズ。

海の機能のふたつめは、そんな大きさを作品に呼び込んだ作品たちです。8 作品エントリー。

月の海

ということで、いきなり宇宙へ飛び出します。

月の海。少年の思い描いたファンタジーを無惨に打ち砕いた教師、もとい現実。

白い潮吹きクジラとか、なかなか爽快なイメージなのに、このお話に二重にパッケージを施したところが、インパクトを薄めているのでは。

まず映画パッケージ。どんな映画か情報が与えられていない側としては、「夢から醒めた感」を共有しがたいです。

その上に妹パッケージ。今日び、「妹」という単語に妙なヒラヒラが付きすぎているわけで、そのヒラヒラがジャマです。

わざわざ二重パッケージにした意図が、読みとれなかったのです。

地上の衛星

も一個、月。でもって、恋愛。

まあ、たしかに茜さんおっしゃる通り、月を墜落させて、なかったことにしてしまいたい勢いですね。周囲に被害が及ばなければ。

何がうまい、って、ふつう、どんなに成りきって描いても、どこかに第三者の視線を意識した、よそゆきトークになるはずなのに、これはほんとうに二人とも相手しか見えてない。その点で、熱愛のカタチがもののみごとに描出されていました。

島民一同を甘さで悶絶させて、しかも晴れの初回首位、おめでとうございます!!!

ということで、彼氏/彼女持ちのみなさまは、このトークを実践してみて、効果測定報告をばよろしく。

無限の世界

気を取り直して、星の海へ。

いきなり「興味本位」はヒドカろうと思ったけれど、そのあとはていねいな展開で、潮が満ちてゆくように恋愛水位がだんだん上がってゆくようすに寄り添ってゆくことができました。

それにしても、やにわに背中をどやしたり、夏なのに手をぎゅっとか、なかなか活発なお嬢さんで。うまくいくのかなあ、この二人(心配症)。

あおいうみ

月ほどの大きさは持たないけれど、やはり地球サイズを感じさせたので、ここに置きます。

海はこの世でいちばんつよい。というコンセプトをもとに組み立てた、いわば寓話といったところでしょうか。

詩のスタイルを取りつつ、理詰めで説得しようとしたスタンスが、「そんなこと言っちゃってえ〜」とかえって読者の反論を招いてしまった憾み。

かなしみ、を表現したいのなら、このコンセプトをふくらませストーリー化して、寓話か昔話風に仕立てると良かったのでは？

海の大きさは我らが惑星地球への思いを誘い、それはさらに地球温暖化というテーマにつながって社会派作品を生み出します。4 作品エントリー。

海をいじめちゃいけない

まずは子どもの視線から。

山梨育ちの卓郎くんの冒険。水博士気取りでかわいいけれど、これじゃあ子どもの足で無理だよ、と非現実感ありありなので、設定にもう一工夫あると良かったのでは。

カミナリの子、なんてどうでしょ？ 雲のおじいちゃんの元を飛び出して、ゴロゴロゴロ、あっちの水をピカピカ試し、こっちの水の苦さにシロクロ。

楽しさを演出したあとに、さらり教訓というのが、たぶん匙加減としてちょうど良いのでは。

海が大きいのは人間が小さいから

お次は少し成長して、小学校高学年の優等生作文、といった趣です。

人類史を追いつつ未来へ。コンパクトにまとめたのですが、コンパクト過ぎて主張のポイントが見えません。敢えて小学生っぽくしたのなら、「先生のコメント」なんていうツッコミ欄を設けて、この作文の弱点を指摘してみる、なんていう手もあったのでは。

ときに、どなたも言及してませんが、このタイトルの意味は？ 大小に絶対的基準などない、比較の問題さ、ということでしょうか？ ならば、それが内容とどうリンクしてくるのかも見せて欲しかったです。

人間と海

より成長して、大学受験の小作文といったところでしょうか。私が採点者なら B 評価くらいかな。

資料を持ち込めない受験答案ならともかく、準備して書けるコラムなのでから、ただ日頃の思いを連ねるだけでなく、主張の核の部分はちゃんと具体的に調べて、論拠を挙げつつ書かないと説得力を持ちません。たとえば「今、驚くほどに汚い」って、どこの海の話で、どの程度汚れているのでしょうか。

論理展開の整合性もたいせつです。たとえば下記。

「取り返しがつかなくなる前にそれを思い出さなくてはならない。歴史からもよくわかるが人間という生き物は取り返しがつかなくなると初めて後悔できる生き物なのだから。」

これ、「だから」で結ばれて、〈主張〉とその〈裏付け〉という構造をしているのですが、取り返しがつかなくなると思い出さないのが人間→だから→取り返しがつかなくなる前に思い出さなくてはならない。???

破綻してます。

雰囲気で分かるだろ、ではなく、こうした論理的な文章は、「すなわち」「だから」「しかし」といった接続詞たちが、きれいに整合していなくてはいけないわけで、そこの修業を。

言われていることと、現実には起こりそうなこと

これぞ大学生レポート。

海は生きている。どこかが少し滞ると、その搏動（はくどう）が弱くなり、それがまた悪影響を広げ、やがては徐々に活動が停止して死に至るであろう。

興味を引きやすい入り口から、じつにダイナミックな広がりへと読者を導き、ラストは「地球温暖化→南極の氷が解けて海面上昇→大変なことに！ という一本調子の理解はそろそろやめにしよう」とシンプルに着地。

最新の科学知見への御招待、本一冊ぶんのダイジェストを手にしたような充実の読後感でした。

そうだったのか海。

まるで生命みたい、と思いました。複雑玄妙な仕掛けの神秘。

まるで社会みたい、とも思いました。狂い始めると、もう誰にも止められない。

3.ことば

隔てるもの、大きなもの、と海の機能を使ってきて、3つめは海そのものは登場させず、言葉としての「海」を導き入れた作品たちです。

まずは、言葉遊び系を3作品。

うみはひろいな おおきいな

タテヨミです！

ゆったりした海の広がりを背景に感じさせつつ、キラキラ花火を前景にといった趣向と読みました。いわば一つの作品に多重の意味を込める仕掛け、と。

成功してると思うけど、ラスト1行の着地が惜しかった。

シシマイ！それは海を創るもの

コジツケです！

お兄さんのガンバリも一興でしたが、マー君の策略かな、というフロアからのツッコミも興味深かったです。

ときにこれ、お兄ちゃんじゃなくて、お兄さん、なんですね。どんな状況なんでしょう？
塾の先生なら「先生」だろうし、児童館の相談員さんとか？

第01回 あざらし川柳大賞

センリューです！

みなさま、それぞれに最良の句があったり、自作が投稿されたり、賑わいましたね。

私はやはり大賞が好き。「やれみるな そこにおちてる 布切れを」。

元歌の蠅の嘆願シーンが彷彿としてきて、そこに不運な水着おねえさん（たぶん）の当惑シーンがかぶって、爆笑でした。

まさにアイディアの勝利の銀メダル、おめでとう!!

おしまい、比喻としての海を4作品、お届けします。

海、船、夢、現実

人生を海に喩えました、と。

タイトルに象徴されているように、焦点を結びきれず、あれもこれも語ってしまった感。

そのぶんトークの勢いはあって、特にラストの言い切り部分は、作者さんの心意気が親しく感じられるのですが、先輩像をもう少し具体化して、それと自分、という展開に持ってゆくとか、話のふくらみを作りたかったところ。

喪失

心を海に喩えました、と。

述べられていることの雰囲気は受けとれたように思うのですが、「その瞬間」が、どんな瞬間かが、とても気になるところ。

緊張のあまり何も言えなくなった、というより、失意のあまり言葉を失ったというよう

な状況でしょうか？

自らの体験に引き寄せて読むにしても、もう少し手がかりが欲しいです。

零れた海を泳ぎながら

涙を海に喩えました、と。

病気の彼女、涙の別れ。設定と展開はパターン通りではあるのですが、「悪事は重なる、それは重ならないでと願うほどに起こるのかもしれない」のように、要所要所にはさまれた「まとめフレーズ」が、ずっと全体を引き締めて、いい効果になってるなと読みました。

お約束の展開だからこそ、文章力の差がくっきり出ますね。

危険地帯

一線を超えることを、海の深みに喩えました、と。

すごい描写力に圧倒されっぱなしでした。「迷子の仔犬」は陳腐かなと思ったのですが、そのあと、歩調をずらしたり合わせたり、母の声を遠くに聞きつつ、「いいの……いいよ……かちゃり」

すばらしかったです。今後とも、この無骨な集団に「おんなごころ」を伝授する伝道師様でいらしてくださいませ。彼らと、日本の将来のためにも……!?

さいごに――

真夜中過ぎの船長室のモニターで、ヒートアップ中のコメント戦をはらはらと見つめていました。制御に入るべきだろうか、いや、と。

いろんな人が、いろんな思いをぶつけあう中で、顔の見えない意見交換は、どんなに言葉を尽くしても時に感情を波立たせます。それも、この島に渡ってきた目的のひとつとは言え、不必要に傷を負う人が増えるのは望みません。

一連の経緯を踏まえつつ、いくつかコンセンサスができてゆくといいのかなと思います。

私からの提案を2つほど。

○ 相手への敬意を形に

原則として「さん」付けで呼びたい。特に直接呼びかける場合には。

例：「やまのかめさんさん」

○ 自分自身の言葉で語る

論争の軸がブレ出したのは、議論にデュシャン（それもデュシャン当人でなく宮台氏経由のデュシャン）が召還されてからです。

これを持ち出された方の、議論に懸ける真摯さを疑うものではありませんが、あまりにリスクの大きい行為に思えます。大きなコンテキストの一部分だけ抜いてきて、相手に伝わるものだろうか。相手がすでに、このコンテキストについて別の理解をしている可能性がないだろうか。そもそも、外の権威を召還することで場の信頼を失わないだろうか。

議論の対象となっていた「内輪ネタとは？」を煮つめるのに、現代芸術論を経由して一致点を探るのは、この小さな場では難しいでしょう。

せっかくみんなで孤島に修業に来たのですし、今まで読んだ本や知識はいったん海に沈めて、自前の言葉で語りませんか？

以上が提案です。別に、これに従わなければ甲板掃除っ、というようなルールではありません。どこかでお気にとめていただければ幸いです。

いろんな波乱が起こっても、コミュニティの力で乗り越えてゆければ、と願っています。では。